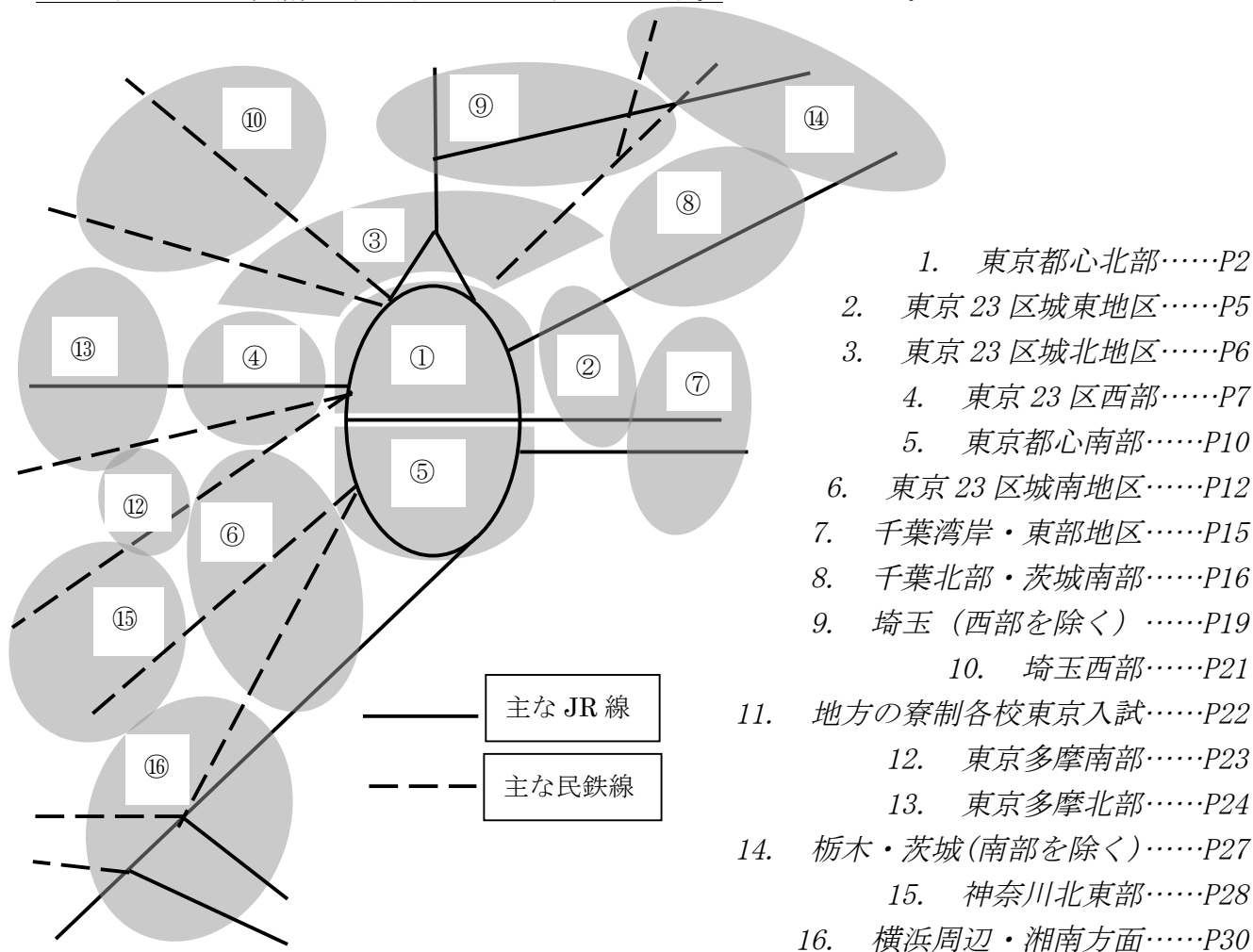


こうなる！ エリア別 16 年入試

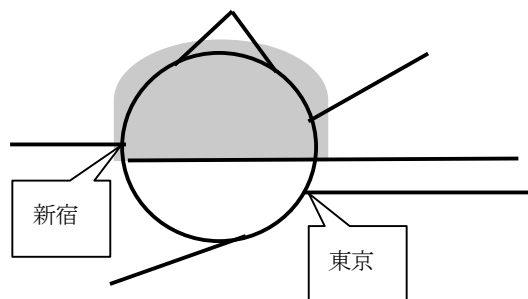
● 気になる 2016 年入試動向。第一志望校と併願校のベストチョイスが入試成功のカギです。今春の入試結果・来年度入試変更点・各模試志望状況などから来年の入試動向をエリア別に分析しました。下のように首都圏を 15 エリアに分け、さらに寮制の学校は別項を設けています。お住まいの地域から通える学校を中心に、ご家庭ごとに「より成功する受験作戦」を練ってください。一生のうち、たった一度、数日間しかない中学入試。なんとかして成功させる、こうした気持ちと周到な作戦、そして諦めずに挑戦する姿勢が第一志望突破の原動力です。

なお、本稿は 11 月 5 日現在でまとめたものです。特に各受験生の併願校は今後の各模試結果などで志望が変わるため、情勢が変動することが考えられます。ご承知ください。



1. 東京都心北部

○ 山手線内・山手線駅から
徒歩圏内のうち、中央総武線以北のエリア



【男子校】

首都圏最難関の開成は、「なんと言っても開成」と考える受験生が多い学校です。入試に特に変更はありません。模試では希望者が少し増えていて、人気は十分です。安全志向から土壇場で志願変更する受験生も考えられますが、難度に変化はなさそうで、来春も厳しい入試になるでしょう。海城も入試に特に変更はありません。模試では希望者がやや減っているようですが、入試直前に御三家から志願先を変更する受験生も出ると思われますので、第1・2回とも入り易くなることはなく、高難度の入試になるでしょう。早稲田も入試に特に変更はありません。模試によって希望者の動向に違いが見られ、特に2月1日の第1回はやや応募者が減るかもしれませんが、学校側の立場に立てば3日の第2回で調整がききますから、入り易くなることは考えにくく、第2回はかえって難化するかもしれません。やはり高難度の入試になりそうです。

巣鴨も入試に特に変更はありません。固定ファンが多い一方で、併願先としての人気はやや陰りが出ているようで、本当の意味で質実剛健というか、ハードな学校生活のイメージが強いことが影響しているのでしょう。模試では2月2日のⅡ期の希望者が減っているようです。Ⅰ期は今春並みの難度だと思われませんが、Ⅱ期はやや入り易くなるかもしれません。本郷は昨年から競合校の多い2月1日に入試を始めましたが、人気は下がりませんでした。もともと、少々力不足でも志望順位が高い入学者に来てほしい、という変更でした。来春に向けては入試に特に変更はなく、模試で高学力層の希望者が増加、やや力不足気味の希望者は減少傾向です。このまま推移すると、応募者が減っても難化する「受験生が絞られた」状況になるかもしれません。各回とも要注意です。

成城も人気が上がってきた学校です。昨年、2月

5日に3回を増設し、さらに人気が上がりました。同校も入試に特に変更はありません。模試では希望者が少し増えていて、各回次ともさらに難化するかもしれません。要注意校です。獨協は、来春は第3回を2月5日から4日に前倒しし、各回次の定員配分を変更しますが、大きな影響はありません。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、総じて高学力層の希望者がやや減少、同校を挑戦受験で考えている希望者はあまり変わっていないようです。2月1日の第1回は今春とあまり変わらない難度になると思われますが、第2・3回はやや入り易くなるかもしれません。

附属カラーの強い学校では、立教池袋も入試に特に変更はありませんが、模試では2月2日の第1回の希望者がやや増えているようで、人気が上がっています。少し難化するかもしれません。第1回が難化すれば2月5日の第2回も難化しますから、こちらも注意した方が良いでしょう。学習院も入試に特に変更はありませんが、2月2日の第1回は模試の希望者に変化は見られないものの、3日の第2回は希望者が増えています。第1回の難度は今春とあまり変わらないと思われませんが、第2回は募集定員が少ないですから難化の可能性が高くなっています。注意した方がよさそうです。日大豊山は2月5日の入試を3日午後に前倒しし、4科から2科に変更します。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、新校舎が完成したこともあって、総じて人気が上がっているようです。2月1日午前の第1回は今春並みの難度になりそうですが、他の回はやや難化するかもしれません。

特選コースが人気の京華は、2月1日午後入試を特選コースのみとするなどの変更があります。模試では特選・中高一貫コースとも希望者の増加が目立っていて、さらに人気が上がっているようです。

特選コースは各回とも今春並みの難度だと思われませんが、中高一貫コースはやや難化するかもしれません。要注意校です。聖学院も人気が上がっている学校です。思考力入試の日程を一部変更していますが、模試では希望者がやや増加しており、特待入試は今春並みの難度だと思われませんが、一般入試はやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。

【女子校】

今春はサンデーショックの年でした。以前に比べてサンデーショックの影響は小さくなっていますが、それでも受験生の動きにいろいろな変化が見られました。これが来春はもとに戻ります。まず、女子御三家の筆頭で首都圏最難関の女子校の桜蔭は、サンデーショックでもあまり動じない学校で、来春も特に入試に変更はありません。模試での希望者は減少傾向ですが、サンデーショックの戻りの現象ですから、入り易くなることは考えられません。豊島岡女子は、模試では2月2日の第1回の希望者が増加、2月3日の第2回は減少が目立ちますが、これもサンデーショックの戻りの現象です。これに対応して各回次の募集定員を変更していますので、2月4日の第3回を含め、難度に特に変化はなく、高水準の入試になりそうです。

学習院女子は入試に特に変更はありません。模試では2月1日のAの希望者の減少が目立ちます。サンデーショックの戻りの現象です。来春はやや入り易くなるかもしれません。2月3日のBも希望者はやや減っているようですが、こちらは定員の関係もあって難度面でも今春とあまり変わらないと思われまます。跡見学園は上位クラスをIクラス、在来クラスをPクラスとするコース制を初めて実施、2月1日午後に活動歴重視型の入試を新設するなど、大きな変更を行います。Iクラスは難関大学をめざすクラスです。模試では、スライド合格を行う関係上、各回次ともPクラスの希望が大きく減っていますが、これはIクラスに流れたためです。ただ、Iクラスを合計してもやや減っていて、同校のファン層にコース制があまり浸透していないようです。各回次ともIクラスは今までの同校より1ランク上の難度になると思われますが、Pクラスは少し入り易

くなるかもしれません。

十文字はスーパー選抜と普通の2コース制です。来春は帰国生入試を開始するとともに、2月1日午前の入試をスーパー選抜に変更、2月2日午前にチャレンジ入試として、普通コース向けだけでなく、英語入試や思考力入試を新設、2月3日の入試を2日午後とします。志望順位の高い受験生向けの1日午前もそれなりの学力水準を求めたい、さらに普通コースレベルの受験生だけでなく積極的に英語や思考力問題に強い受験生を迎えたいとする学校側の姿勢です。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、スーパー選抜は、その性質上難度は今春並みと思われまます。普通は、全体的に中堅女子校の popularity がやや下火になっていることから、少し入り易くなるかもしれません。

文京学院大女子は今春、コース制をグローバルスタディーズ、アドバンストサイエンス、スポーツサイエンスの3コースに改編し、カリキュラムも大きく見直し、長年同校の特徴だった「2科+算数応用・社・理・英から選択」も通常の2科4科に変更しましたが、受験生への浸透が不十分で、それが入試結果にも表れていました。来春は、コース制は変更しませんが、入試科目は「2科理・社・英の各2題合計6題から2題以上選択」と、以前の方式に近い科目の入試に戻します。こうした動きを歓迎して、模試では希望者が増えています。今春入り易くなっていた難度も、昨年に近い水準に戻りそうです。京華女子は一部に定員配分や午後入試の午前への移行などがありますが、大きな変化ではありません。模試での希望者も特に変化は見られず、特待・一般各回次とも今春並みの難度でしょう。

このエリア唯一のプロテスタント校、女子聖学院は、以前はサンデーショック時に2月1日午前の入試を行っていませんでしたが、入試の早期終了傾向が強まっていることから方針を変更、今春は日曜日の2月1日にも午前・午後とも入試を実施しました。来春は2月1日午後入試で英語も選択できるよう変更しますが、あまり影響はなさそうです。模試では各回次とも希望者が減少気味で、やや入り易くなるかもしれません。このほか、川村、淑徳SC、成女

は小規模な入試の学校です。来春に向けては、一部に入試の変更はありますが、特に人気に変化は見られません。各校・各回とも今春並みの難度でしょう。なお、村田女子は中学募集を休止します。

【男女校】

今春、男子校から共学化して赤羽台から白山に戻ってきた東洋大学京北はイメージを一新して一気に難化しました。来春は2月5日の入試を4日に前倒しして、各回次の定員を見直していますが、人気は高く、模試では同校が挑戦受験になりそうな学力層の男子にやや敬遠傾向が出ているものの、女子と比較的高学力の男子の希望者は増えています。来春もさらに各回次とも難化した入試になりそうです。要注意校でしょう。駒込はスーパーアドバンス、アドバンスの2コース制です。来春は2月1日午後の入試の教科選択に英語を追加します。時代の流れに合わせた変更です。模試では、志望順位が高い希望者が増加傾向で、特に男子が目立ちます。希望者の学力層もやや上がっているようで、スーパーアドバンス入試は今春並みの難度だと思われませんが、アドバンス入試はやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。

郁文館は今春新設した特進入試を、来春は一般入試に戻すとともに、適性検査型特別奨学生入試を2月2日に増設、2科4科選択入試の2科は国算英からの選択に変更します。今春新設したグローバル対応のGL特進入試は変更がありません。いろいろな変更が受験生に今一つ浸透していない面があり、模試では男女各回次とも目立つ変化はありません。各回次とも今春並みの難度でしょう。上野学園、貞静学園、東邦音大東邦は小規模な入試の学校です。上野学園はもともと音楽教育で伝統のある学校で、アドヴァンストとプログレスの2コース制ですが、貞静学園や現在も音楽系のみ募集になっている東邦音大東邦ともども、来春も小規模の入試でしょう。難度もあまり変わらないと思われま

す。この地域は国立校が多いのが特色です。国立は各校とも入試に大きな変更はありません。筑波大附属は模試での希望者がやや増えていますが、もともと高難度の学校ですから、難度に影響するほどではな

さそうです。今春並みの高難度の入試でしょう。お茶の水女子大附属は高校が女子校のため、共学校ですが男女で合格ラインに相当な開きがある学校です。模試では多数派の女子の希望者数がやや増えていますが、やはり難度に影響するほどではなさそうです。今春並みの難度でしょう。男子は模試によって希望者の動向にバラつきが見られます。もともと応募者が少数ですから、やはり難度面ではあまり変化はなさそうです。学芸大竹早は、都立一貫校の台頭で以前ほどの人気はなくなってきました。模試では希望者が男女ともやや減っているようです。しかし、入り易くなるほどの変化ではなさそうで、同校も今春並みの難度になりそうです。

都立中高一貫校も、来春の選抜に大きな変更はありません。白鷗高附属は特別枠区分Aの算数に若干の変更がありますが、大きな影響はありません。来春に向けては男子の人気はやや下がり、女子の人気が上がっているようです。女子はやや難化するかもしれません。男子は高倍率ですから、目立って入り易くなることはなさそうです。小石川中等は都立中高一貫校中、一番のトップレベル校です。難化が進み過ぎたせい、来春に向けては、同校を挑戦受験で考える学力層の受験生に敬遠傾向が出ているようです。高学力層には大きな人気の変化は見られません。来春は少し応募者が減るかもしれませんが、こうした動向ですから入り易くなることはないでしょう。

☆

2. 東京23区城東地区

○ 京葉・総武・常磐線周辺エリア

【男子校】

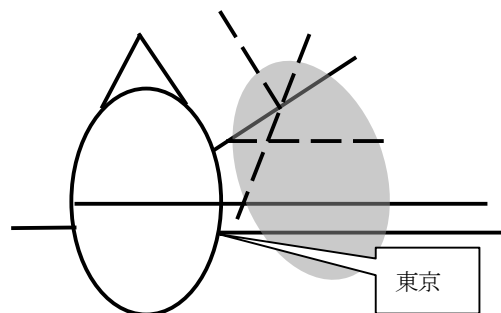
足立学園は特に入試に変更はありません。模試では他校併願前提の受験生を中心に希望者が増加しています。合格ラインで決まる特奨入試は今春並みの難度だと思われませんが、2月2・3日の一般第2・3回はやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。

【女子校】

江戸川女子は入試に特に変更はありません。模試では各回次とも希望者が増えていて、人気が上がっていることがわかります。特に併願受験生が多い2月2・3日午前の第2・3回は、高学力層の希望者の増加が目立ちます。このまま推移すると2月1日午後のAOは今春並みの難度だと思われませんが、午前入試の各回次は難化するかもしれません。要注意校です。中村は2月2日午前と5日午前入試で、従来の教科の入試に並行して、ポテンシャル入試として、自己PRを含む面接と作文の入試を新設します。細かい点に違いはありますが、桐朋女子のAのような考え方の入試です。従来の入試はコンピテンシー入試と呼称します。グローバル化に対応して、表現力の豊かな受験生を迎えたい、という趣旨です。模試では各回次とも希望者がやや増えています。1日午後と2日午後の特待コンピテンシー入試、志望順位の高い受験生が多い1日午前の第1回コンピテンシー入試は今春並みの難度だと思われませんが、2日・5日午前のコンピテンシー入試は、定員が削減されることもあってやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。愛国は小規模な入試です。人気も特に変わらず、来春も今春並みの難度でしょう。

【男女校】

今春、日本橋女学館が埼玉県の開智の系列となって校名を開智日本橋学園に変更、共学化して入試内容も全面的に変更しました。応募者は大幅に増加、一気に難化しています。グローバルリーディング、



リーディング、アドバンストの3コース制ですが、来春からはさらにデュアルランゲージコースを新設して4コース制とします。入試では2月3日午後に英語選択を実施するなどの変更があります。模試では男女とも希望者が増えていて、希望者の学力層もやや上がっています。グローバルリーディングコースは今春並みの難度、新設のデュアルランゲージコースは、グローバルリーディング並みの難度になりそうですが、リーディングとアドバンストの2コースもやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。

かえつ有明は都内男女校で最大の応募者数の学校です。グローバル教育を全面的に打ち出していて、校内で美術展を開催するなど、様々な取り組みを行っています。中学段階は男女別学になっていることも特色です。完全共学でしたが、現在の中2から学年進行で別学に移行しています。来春は2月4日に思考力入試を新設、2月2日午前入試を廃するなどの変更があります。模試では男女とも希望者がやや増加しており、人気はさらに上がっています。特待認定の難度は今春とあまり変わらないと思われませんが、一般合格はさらにやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。2014年に共学化して応募者が急増、イメージを一新した安田学園は、先進・総合の2コース制です。来春は2月1日午後・2日午後の先進入試で英語を選択制で実施します。時代の流れに合わせた変更です。模試では先進コースの希望者が少し減っているようです。難化が進み過ぎて敬遠傾向が出ているようです。総合コースは希望者が増加傾向で、さらに希望者の学力層が少し上がっているようです。先進コースは今春並みの難度、総合コースは少し難化するかもしれません。やはり注意が必要でしょう。

日大第一は2月3日午前に2科入試を新設、2月5日の2科入試と合わせて2科選抜1・2回とし、2月1日・2日の4科入試は4科選抜と呼称します。模試では女子の希望者が増えていて、男子もやや増加しているようです。難化するかどうかは微妙なところですが、少し難化すると考えた方が良さそうです。共栄学園は特進と進学、修徳は特進と普通の2コース制で、比較的小規模な入試の学校です。共

栄学園は入試に一部変更はありますが、両校とも人気動向にあまり変化はなく、来春も今春とあまり変わらない入試になりそうです。

都立一貫校の両国は選抜に特に変更はありませんが、同校を挑戦受験で考えたい学力層の受験生の人気が男女とも上がっているようです。高学力層はあまり変わっていませんので、来春は今春並みの難度になりそうです。

3. 東京23区城北地区

○ 京浜東北・埼京・東上・有楽町・

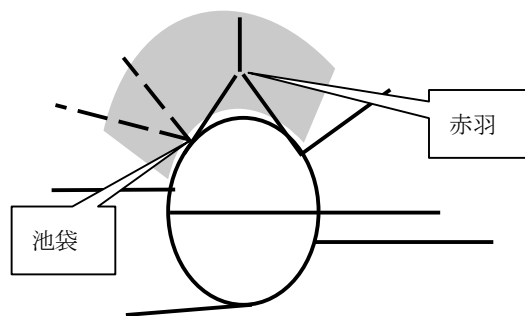
西武池袋線周辺エリア

【男子校】

御三家の一角、武蔵は、以前よりは入り易くなってきましたが、昨年からは人気回復傾向です。来春は入試に特に変更はなく、模試では希望者が少し増えています。独特の出題傾向ですが、やや難化するかもしれません。城北は各回次の定員配分を一部変更しますが、大きな変更ではありません。模試では希望者が少し減っていて、やや人気に陰りが出ているようです。2月1日の第1回は今春並みの難度になりそうですが、2日の第2回は少し入り易くなるかもしれません。4日の第3回は例年高倍率ですから、難度は今春並みでしょう。早大学院も入試に特に変化はありません。模試での希望者にも目立った変化は見られず、今春並みの難度でしょう。芝浦工大も入試に特に変更はありません。同校は2017年度からの豊洲に移転する予定で、板橋で実施する最後の入試です。模試では各回次とも希望者が増加傾向ですが、特に高学力層の増加が目立っています。2月1日の第1回は志望順位が高い受験生が多いため、難化はしないと思われませんが、2月2・4日の第2・3回は難化する可能性があります。要注意校です。

【女子校】

進学校の富士見は入試に特に変更はありません。模試では2月1日の第1回の希望者が減少、2日の第2回は大きく増えています。サンデーショックの戻りの影響でしょう。各回次とも難度に変化はなさそうです。日大豊山女子は2月5日の第4回を2



月3日に前倒しします。入試の早期終了傾向へ対応です。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、全体的にはやや減っているようです。各回とも少し入り易くなるかもしれません。

東京家政大附属は今春、躍進・創造のコース分けを廃止しましたが、来春は2月1日午前に適性検査型入試を新設するとともに、国・算・社理・英から2科選択の特殊科目入試とします。1日午後の特奨入試以降は通常の2科や4科の入試です。1日の午前は志望順位が高い受験生が多いので、得意科目で受験してもらおう、というものです。模試での希望者に目立った動きは見られません。1日午前の第1回は少し入り易くなるかもしれませんが、他の回次は今春並みの難度でしょう。星美学園、北豊島、瀧野川女子学園はいずれも小規模な入試です。入試に一部変更がある学校もありますが、人気に特に変化は見られません。各校・各回次とも今春並みの合格ラインでしょう。

【男女校】

淑徳は東大セレクトとスーパー特進の2コース募集です。2月3日午後のスーパー特選入試を3日午前に、2月6日の東大セレクト入試を3日午後に前倒しします。全体的な入試早期終了傾向に合わせた変更でしょう。模試では、早い日程の希望者がやや

増えています。併願受験生が多いことから、各コース各回次とも難化はしないと思われませんが、注意した方が良さそうです。系列校の淑徳巣鴨は特進と進学2コース制です。回次ごとの定員配分を一部変更しますが、大きな影響はありません。模試では希望者に目立った動きは見られず、両コース各回次とも今春並みの難度でしょう。順天は文部科学省指定のスーパーグローバルハイスクールです。来春の入試は特に変更はありません。模試では他校併願前提の希望者が増えているようです。併願前提ですから、実際の応募者が増えたとしても、各回次とも難化することはなさそうですが、注意は必要でしょう。

桜丘は、日本 e-Learning 大賞で今年、文部科学大臣賞を受賞したICT活用先進校です。来春は回次ごとの定員の見直しと、特待チャレンジを前面に出した入試回次名としますが、大きな変更はありません。模試での希望者にも目立つ動きはなく、各回次とも今春並みの難度になりそうです。帝京大帝京は2月5日の入試を4日に前倒しするとともに、7

日にも入試を追加しますが、入試情勢への大きな影響はありません。模試では、女子の志望順位が高い希望者が少し増えているようですが、入試が難化するほどではなさそうです。各回次とも今春並みの難度でしょう。城西大城西はGAクラスと一般クラスの2コース制を取りやめます。模試では男子の希望者がやや増えています、やはり入試が難化するほどではなく、同校も各回次とも今春並みの難度でしょう。武蔵野は小規模な入試の学校ですが、来春も今春とあまり変わらない入試になりそうです。

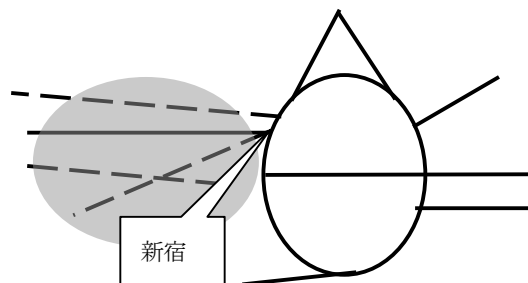
地域唯一の国立校、学芸大国際は国際バカロレアの中等教育プログラム実施校で、入試に特に変更はありませんが、その特殊性もあり、来春も今春並みの難度でしょう。都立の大泉高附属も入試に特に変更はありません。女子の人気にあまり変化していませんが、男子は同校を挑戦で受験したい学力層で人気が上がっているようです。こうした状況から、難度面は今春とあまり変わらないと思われま

4. 東京23区西部

○ 中央・西武新宿・京王線周辺エリア

【男子校】

明大中野は入試に特に変更はありません。模試では2月2日の第1回の希望者がやや増加傾向ですが、昨年同期よりも希望者の学力層が上がっているようです。高学力層の男子の附属校志向が強くなっているのでしょうか。4日の第2回も含め、少し難化するかもしれません。進学校の佼成学園は、2月1日午後に適性検査型入試を新設するほか、2月1・3日午前の入試で英語選択も可能にします。模試での希望者は増えていて、人気が上がっているようです。合格ラインで決まる特奨入試は各回次とも今春並みの難度になりそうですが、一般入試は2月1日の1回を除いてやや難化するかもしれません。第1回は今春とあまり変わらない難度でしょう。日本学園は比較的入り易い学校で、明治大学と提携を結んで話題になっていますが、明治大学に優先入学できるわけ



ではなく、このことが受験生に浸透するにつれて人気に落ち着きが出るようになりました。日程などを一部変更しますが、模試では希望者数に目立つ変化はなく、各回次とも今春並みの難度でしょう。

【女子校】

プロテスタント校の立教女学院は、今春日曜日を避けて入試を2月2日に移動しましたが、来春は1日に戻ります。模試では希望者の減少が目立ちますが、前回のサンデーショックの戻りの時も同じ現象が見られましたので、予定の変更です。今春に比べれば少し入り易くなりそうですが、2014年並みの難度に戻るだけで、それ以上入り易くなることはありません。大妻中野はグローバル入試として2科+英

語の入試を新設、この入試での入学者は帰国生とともに教養面でもグローバル化を踏まえた教育を行っていきます。模試では併願で同校を考える受験生が増加しており、2月1日午前のコア選抜は今春並みの難度だと思われませんが、アドバンスト入試は各回次ともやや難化するするかもしれません。

カトリック校の光塩女子は、今春まで2月4日に第2回の科目選択として実施していた総合型入試を1日に独立させて実施、これを第1回とし、2月2日の4科入試を第2回、4日の4科の入試は1日前倒して2月3日に第3回として実施します。総合型は国算の2教科に、今後求められる学力観ということで思考力・表現力を見る問題を加えて実施していたもので、この入試で入学した生徒の成長や4科入試で入学した他の生徒への影響度合いなどを検証した結果、好ましいと判断したことから、独立した入試としたものです。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、概ね2日の第2回は同校を挑戦で考える学力層の希望者が減って、高学力層が増加傾向と考えられます。1日に新設される総合型は従来の4日の総合型と大差ない難度、2日の第2回は定員が減ることもあって難化は確実、3日の第3回も模試では希望が減っているようですが、追加出願も考えられるため難化が考えられ、要注意でしょう。

文化学園大杉並は今春から高校に、日本とカナダの両方の高校卒業資格がとれるダブルディプロマコースがスタート、このようなコースは全国唯一だけに、地方からも問い合わせが入るなど、注目度が高くなっています。中学は難進グローバルとシグネットの2コース制で、難進グローバルコースからはダブルディプロマコースにも進学できる(一般的な難関大学狙いのコースも可能)ことで関心が高くなっています。来春は特に入試に変更はありませんが、模試では各回次とも希望者が増えていて、希望者の学力層もやや上がっているようです。難進グローバルコースは今春並みの難度だと思われませんが、一般の入試はやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。佼成学園女子も、文部科学省のス

ーパーグローバルハイスクールに指定され、英語教育、グローバル教育に取り組んでいます。来春は2月3日の入試を午前午後とも4日に移したり、回次ごとの定員配分の一部を変更します。模試の希望状況は昨年とあまり変わっておらず、同校は各回次とも今春並みの難度になりそうです。

富士見丘もスーパーグローバルハイスクールに指定されました。来春は中学で英語特別コースを新設、英語教育とグローバル教育に臨みます。2月2日午後の入試を廃止し、各回次の定員を見直しています。模試では希望者の動きにあまり目立った者は見られませんので、各回とも今春並みの難度でしょう。東京女子学院は小規模な入試の学校で、やはり来春も今春とあまり変わらない入試になりそうです。

【男女校】

国学院久我山は入試に特に変更はありません。午前の一般入試と午後のST選抜を行っていますが、模試ではST選抜の希望が男子は増加、女子もやや増加傾向ですが、一般入試は各回次・男女とも希望者が少し減っています。志望順位が高い受験生が他校に流れているのかもしれませんが。併願受験生が多いST選抜は、2月1日午後のST1回、2日午後のST2回とも、その性格上少々応募者が増えても難度は変わらないと思われませんが、一般入試は各回次とも少し入り易くなるかもしれません。ただ、入り易い学校ではありませんから、油断と甘い期待は禁物です。宝仙学園理数インターは2月4日午前の4科の特待入試を廃止して公立一貫型の特待入試だけとします。また、代わって4日午前にはリベラルアーツ入試を新設します。これは今後求められる学力観を反映したもので、日本語のリスニングと面接です。模試では男子の志望順位の高い希望者が少し増えています。女子には目立つ動きは見られません。男子の志望順位の高い受験生の希望者は増えていますが、難化するほどではなさそうで、各回次とも今春とあまり変わらない難度になりそうです。

日大系列校の中では他大学進学実績が高い日大第二は入試に特に変更はありません。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、総じて2

月1日の第1回は少し希望者が減っているようです。2月3日の第2回は、男子の併願前提の希望者がやや増えているようですが、いずれにしても志望順位の高い受験生は減少気味なのでしょう。このまま推移したとして、第1回が入り易くなるかどうかは微妙なところです。第2回は今春並みの難度でしょう。

目白研心は特進と選抜の2コース募集でしたが、来春から入学時のコース分けを取りやめ、インターナショナル生向けの入試を新設します。中3からのスーパーイングリッシュコースの設置など、グローバル化対応への注力を行っているため、在来型のコース分けが不釣り合いになってきたようです。インターナショナル生向け入試は、一般の受験生にはあまり影響はありません。模試では、男子の志望順位が高い希望者がやや増えているようですが、入学時の在来型のコース分けを廃止することから、難化す

ることは考えにくく、各回次とも今春の選抜コース並みの難度になりそうです。実践学園は入試に大きな変更なく、模試での希望者も特に目立つ動きはありません。各回次とも難度に変化はなさそうです。東京立正や新渡戸文化は小規模な入試ですが、入試にいくつかの変更はあるものの、来春も小規模な入試になりそうです。なお、杉並学院は中学の募集を休止します。

国立・都立です。双子の教育で知られる東大附属は入試に特に変更はありません。模試によって希望動向にバラつきが見られますが、独特の存在であることもあって、難度は変わらないとみられます。都立富士高附属も入試に変更は特になく、来春に向けても人気にあまり変化はありません。難度も今春並みでしょう。

ご参考に キリスト教系学校一覧

●カトリック系

《東京》

暁星・光塩女子学院・白百合学園・聖心女子学院・聖ドミニコ学園・星美学園・雙葉学園・
目黒星美学園・晃華学園・サレジオ(小平)・東京純心女子・東星学園

《神奈川》

栄光学園・カリタス女子・函嶺白百合学園・湘南白百合学園・サレジオ学院・聖光学院・
聖セシリア・清泉女学院・聖ヨゼフ・聖園女学院・横浜雙葉

《埼玉・栃木》

浦和明の星・宇都宮海星女子学院

●プロテスタント系

《東京》

青山学院・恵泉女学園・香蘭女学校・頌栄女子学院・女子学院・女子聖学院・聖学院・玉川聖学院・
東洋英和女学院・普連土学園・立教池袋・立教女学院・桜美林・啓明学園・自由学園・明治学院

《神奈川》

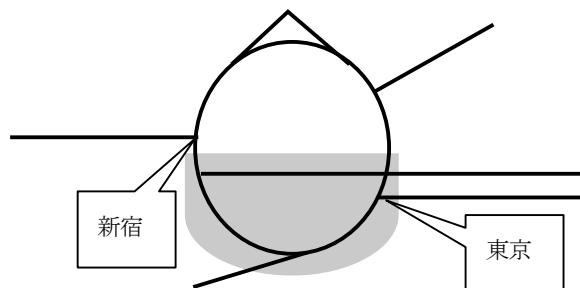
アレセイア湘南・関東学院・関東学院六浦・捜真女学校・フェリス女学院・横須賀学院・
横浜英和女学院・横浜女学院・横浜共立学園

《埼玉・茨城》

浦和ルーテル学院・聖望学園・立教新座・茨城キリスト教学園・北浦三育

5. 東京都心南部

○ 山手線内・山手線駅から
徒歩圏内のうち、中央線以南エリア



【男子校】

この地域の男子校は、いずれも入試に特に変更はありません。まずトップ校の麻布は、このところ人気安定していて、来春に向けても模試の希望者数に大きな変化は見られません。来春も高難度の厳しい入試でしょう。カトリック校の暁星は、模試の希望者がやや増えているようです。2月3日が入試ですから、応募者がほとんど受験するというわけではありませんが、若干難化するかもしれない、と考えた方が良さそうです。芝は人気安定していて、模試では2月1日の第1回、御三家との併願者が多い4日の第2回とも希望者に目立つ変化はありません。第1・2回とも今春並みの難度でしょう。高輪はやや人気に陰りが出ているようで、模試では2月1日午前のA、2日午前のBの希望者が減っています。高学力層の希望者が減っていて、AとBはやや入り易くなるかもしれません。2日午後の算数入試や4日午前のCは定員が少ないことから、今春並みの難度でしょう。

【女子校】

このエリアには女子御三家のうち2校がありますが、今春、日曜日を避けて2月2日に入試を動かし女子学院は1日に戻ります。模試では希望者が大きく減っていますが、当然で、前回のサンデーショックの戻りの時も同じ現象が起きていました。若干は入り易くなると見込まれますが、もともと最高難度に近い学校ですから、目立って入り易くなることは期待できません。雙葉は入試に特に変更はありません。今春見られた女子学院との併願はありえなくなります。やはり模試の希望者は減っていますが、高難度の学校ですから目立って入り易くなることは期待できません。

白百合も入試に特に変更はありませんが、もともと2月2日が入試ですから、今春は2日に動いた東洋英和などの影響をもろに受けました。来春に向け

ては模試の希望者が増えていますが、サンデーショックの戻り現象で、予想された動きです。少し難化するでしょう。プロテスタント校の東洋英和は、今春Aが2月2日に移動していましたが、来春は2月1日に戻ります。Bは3日のままです。帰国入試を新設しますが、大きな影響はありません。模試ではAの希望者が減っていますが、予定通りの減少です。来春は合格者も絞ると考えられますので、少し入り易くなるかどうかは微妙なところで、甘い期待は禁物です。Bは希望者がやや増えているようで、少し難化するかもしれません。

頌栄女子学院と普連土学園もプロテスタント校ですが、両校とも以前から日曜日にも入試を行っていて、今春も2月1日に入試がありました。このため、日程が動いた他のプロテスタント校との併願受験生の動きが変わり、両校とも2月1日は難化した入試でした。両校とも来春も入試に特に変更はありませんが、こうした今春の状況が元に戻る動きが見られ、2月1日の頌栄女子学院第1回は高学力層の希望者が少し減っているようです。やや入り易くなるかもしれません。5日の第2回は希望者に特に変化は見られず、今春並みの難度でしょう。普連土学園も1日の1次は同様で、やや入り易くなるかもしれません。2日午後の2次と4日の3次は模試での希望者が増えていて、少し難化しそうです。注意が必要な学校です。

大妻と共立女子は、かつては伝統的女子大附属校でしたが、今では進学校として認知される存在です。キリスト教の学校ではありませんが、今春はサンデーショックの影響を大きく受けました。大妻は来春、各回次の定員配分を変更しますが、サンデーショックの戻りの影響です。模試では2月1日の第1回は希望者減、2日の第2回は増加と、予定通りの変化です。募集定員が調整されていますから、どちらも

難度は今春とあまり変わらないでしょう。2月3日の第3回は模試の希望者がやや減っているようですが、少定員ですから入り易くなることはないでしょう。共立女子は2月4日のC入試を、今後求められる学力観に基づいた合科目記述型に変更します。模試では同校も2月1日のAは希望者減、2日のBが増加していて、やはり予定通りの変化です。同校はサンデーショックの戻り現象を合格発表者数で調整する予定ですから定員配分に変更はありませんが、やはりA・Bとも今春並みの難度になりそうです。教科融合の記述型に変更するCは、特に併願前提の受験生が少し敬遠しているようで、模試での希望者はやや減っていますが、こちらも少定員ですから入り易くなることはないでしょう。

東京女学館は今春、2月1日午後に入試を新設、午後入試を2回にしました。以前は志望順位の高い受験生が中心でしたが、近年は併願受験生中心に変わってきています。来春は入試に特に変更はありませんが、模試では2月1日午前の第1回、2日午後の第3回の希望者がやや減っています。1日午後の第2回と4日午前の第4回は模試によって動向にバラつきが見られます。総じて、人気に陰りが出ているようですが、高学力層の併願前提の受験生の人気は健在で、来春は午前入試が各回次とも少し入り易くなるかもしれません。午後入試は今春並みの難度でしょう。2日午後の国際学級は、その特殊性もあって今春並みの難度だと思われます。山脇学園は「山脇ルネッサンス」として、教育内容の改革に取り組み、応募者が増えてきました。来春は英語特別枠を新設、英語特別入試を実施して、グローバル化対応の教育を深度化していきます。模試では2月2日のBで高学力層の希望者が増えているようです。1日のAは今春並みの難度だと思われますが、Bはやや難化するかもしれません。2月4日のCは少定員で、「少なくとも今春並みの難度」と考えた方が良さそうです。

実践女子もグローバル化対応のGSCクラスを設置しています。来春は2月4日のSJC3回を3日に前倒しし、定員配分も見直します。模試では2月1日午後のGSC入試は、グローバル化への期待が

高まっていることから、希望者がやや増えています。一般のSJCは少し減っていて、特に高学力層の減少が目立ちます。GSCはその特殊性から、今春並みの難度だと思われませんが、SJCの各回次はやや入り易くなるかもしれません。三輪田学園は今春面接を廃止するなど、受験しやすく入試を変更しました。来春は入試に特に変更はありません。模試では2月2日の第2回の希望者がやや増えているようですが、難化するほどではありません。1日の第1回、4日の第3回も今春並みの難度でしょう。

和洋九段は2月3日の第4回を午後入試に移行し、定員配分を見直します。模試では希望者が少し増えています。各回次とも今春並みの難度でしょう。麹町学園女子は入試に特に変更はありません。模試では志望順位の高い希望者がやや減って、併願前提の希望者が少し増えているようです。2月1日午前の入試は少し入り易くなるかもしれません。他校併願前提の受験生の増加も、入試が難化するほどではありませんので、他の回次は今春並みの難度でしょう。東京家政学院、千代田女学園、神田女学園も、入試に様々な変更点がありますが、今春も小規模な入試で、来春も各校各コースとも今春並みの難度だと思われます。帰国生募集のみの聖心女子も難度に変化はなさそうです。なお、千代田女学園はインターナショナルスクールに改編していくため、2018年度(現小4の受験)から中学募集を停止する予定です。

【男女校】

共学校は、日出が2月5日に入試を新設しますが、この地域の他校は大きな入試の変更はありません。まずトップ校の慶應中等部は、模試では男子の希望者がやや増えている、女子は少し減っているようです。女子は入試の早期終了傾向の影響でしょう。男子はやや難化するかもしれません。女子はもともと1次に合格しないと2次は受験できないこともあって、難度は今春とあまり変わらないでしょう。渋谷教育渋谷は文部科学省指定のスーパーグローバルハイスクールです。模試では男子の希望者が高学力層の受験生を中心にやや増えているようですが、女子は少し減っています。男子は2月1・2日の第1・2

回がやや難化するかもしれません。女子は希望者が少し減っていますが、もともと高難度ですから入り易くなることはないでしょう。2月5日の第3回は少定員ですから、来春も高難度の厳しい入試になりそうです。

青山学院はプロテスタント校で、今春はサンデーショックの影響が大きかった学校です。模試では男女とも希望者の増加が目立っています。今春はサンデーショックの影響で少し入り易かったのですが、来春は男女とも難化が見込まれます。要注意校です。広尾学園は医進サイエンス、インターナショナル、本科の3コース制で、来春は各回次の定員配分を一部変更するだけです。模試では男女・各コースとも希望者が増加傾向で、人気が上がっています。各コース・各回次とも少し難化しそうです。こちらも要

注意校です。東海大高輪台は附属カラーが大変強い学校で、開校以来2月1日と3日の2回入試でしたが、今春から5日入試を新設、3回入試になりました。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、総じて女子の併願前提の希望者はやや増加傾向のようです。ただ、難化するほどではなく、男女・各回次とも今春並みの難度でしょう。日出も前述のように入試を増設しますが、小規模な入試で、来春もこの点は変わらないと思われます。

公立中高一貫校の九段中等教育は、来春に向けては男女とも人気に陰りが出ているようです。千代田区民卒は今春並みの応募者が見込まれますが、区民以外の都民卒は応募者が減るかもしれません。ただ、もともと高倍率ですから、男女とも目立って入り易くなることは見込めません。

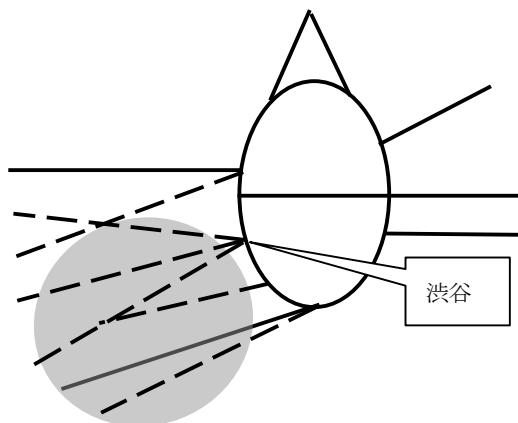
6. 東京23区城南地区

○ 小田急・東急・東海道

・京急線周辺エリア

【男子校】

男子校では、攻玉社が特別選抜の日程を1日繰り上げるなど、一部に変更がある学校もありますが、いずれも入試に大きな影響がある変更ではありません。国立の筑波大駒場は人気が上がっているようで、模試では希望者が増えています。すでに限界に近い難度ですが、倍率面でやや厳しい入試になるかもしれません。同校のご近所、駒場東邦は模試での希望者がやや減っているようです。ただ、高難度ですから少々応募者が減っても入り易くなることはないでしょう。御三家各校に次ぐ進学校として評価の高い攻玉社は2月6日の特別選抜を5日に繰り上げます。模試では2月1日の第1回の希望者が増加、2日の第2回と5日の特別選抜は模試によって動向にバラつきが見られます。第2回は高学力層の希望者が減っていて、難関校併願の受験生が他校に流れているのかもしれません。第1回はやや難化しそうで、注意が必要です。第2回と特別選抜は第1回の不合格状況で左右されますから、最低でも今春並みの難度、場合によってはやや難化もあるかもしれない、と考



えた方が良さそうです。

世田谷学園は2013年まで応募者の増加が目立っていましたが、激化が進みすぎて2014年からは応募者が減少傾向です。来春に向けても傾向は変わっておらず、模試では各回次とも希望者が少し減っています。各回次ともやや入り易くなるかもしれません。東京都市大付属は都内男子校で応募者数トップを続けています。今春はI・II類を別定員とし、グローバル入試を開始しましたが、来春に向けては人気に陰りが出ているようで、模試での希望者はI・II類ともやや減っています。難化が進み過ぎて敬遠モードが起きているのでしょうか。ただ、応募者数都内トップですから、応募者が減っても合格基準点を下げない可能性も高く、各回次とも入り易くなる、といった甘い期待は禁物です。

【女子校】

鷗友学園は2月1・2・4日の3回入試でしたが、来春から2月1・3日の2回入試になります。徐々にレベルアップして評価が上がってきたために、入試回数の削減に踏み切りました。模試では第1回が希望者減、第2回は増加しています。第1回の減少はサンデーショックの戻りによるもので、第2回の増加はサンデーショックの戻りの他に、入試回数が減った影響もあります。第1回は応募者が減っても入り易くなることはないと思われます。第2回は難化して、今春の第3回並みの高難度になるかもしれません。要注意校です。立教系列校の香蘭は、この難度の女子校では珍しく2科4科のまま、しかも今春は日曜日の2月1日に1回だけ実施しました。来春も特に変更はありません。模試では今春、2月2日に移った学校との併願者が減った分、希望者も減っています。やや入り易くなるかもしれません。

恵泉女学園もプロテスタント校で、今春は日曜日の2月1日を2科・午後のS入試とし、4科のA入試は2月2・4日に実施しました。来春は元の形に戻さず、この体制のまま入試を行います。模試ではS入試の希望者が減少していますが、予想された変化です。2・4日のA1・2回は模試によって動向にバラつきがありますが、A1回は高学力層の希望者が少し増えているようです。S入試は午後入試で併願受験生が多くなりますから、応募者が減っても入り易くなることはなさそうです。A1回はやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。A2回は今春並みの難度でしょう。同じプロテスタント校の玉川聖学院は、今春は午後も含めて2月1日に入試を行いませんでした。来春は1日午前から入試を行います。模試では応募者が少し減っているようです。各回次ともやや入り易くなるかもしれません。

田園調布学園は2月3日の第2回を2日に繰り上げるほか、定員配分を見直します。2014年入試で応募者の減少が目立ち、今春は応募者が増えましたが、来春に向けては再び人気に陰りが出ているようで、隔年現象化しています。模試では1・2日の第1・2回で特に高学力層の希望者の減少が目立っています。4日の第3回はやや増えています。第1・2回は少し

入り易くなるかもしれません。第3回は今春並みの難度でしょう。品川女子学院は文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定されていて、この関係もあって2月4日の第3回を、今後求められる学力観に基づいた4科総合論述型に変更します。模試では2月1日の第1回の希望者に特に変化は見られませんが、2日の第2回は増加しており、高学力層の希望者も増えています。第3回は入試問題の変更が敬遠されたようで、希望者は少し減っています。第1回は今春並みの難度になりそうですが、第2回は少し難化するかもしれません。第3回は少定員でもあり、入り易くなることはないでしょう。

昭和女子大もスーパーグローバルハイスクールに指定されていて、グローバル留学コースと本科コースの2コース制になり、2月1・2日午前のA・B入試は2コース並行募集、3日午前のCは本科コースのみの募集になります。模試では2コース制に伴って本科コースの希望者がやや減っているようです。グローバル留学コースは本科コースよりも1ランク上の難度になりそうです。本科コースは募集定員が削減されますから、応募者がやや減っても入り易くなることはなさそうです。英語教育の実績で著名な八雲学園は、2月1日午後の第1回3日午前の第3回を4科から2科4科選択として、2科受験生への門戸を広げます。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、第3回は高学力層の希望者がやや増えているようですが、難化するほどではなく、各回次とも、むしろ少し入り易くなるかもしれません。トキワ松と小野学園、カトリックの目黒星美、聖ドミニコ学園は、入試要項に変更もありますが、総じて人気に特に変化は見られません。各校各回次とも今春並みの難度でしょう。

【男女校】

今春は戸板が共学化、三田国際学園に校名を変更し、応募者が爆発的に増えて大きな話題になりました。広尾学園を育てた立役者が校長に就任して学校改革に臨んでいることが期待につながりました。インターナショナルと本科の2コース制です。来春は2月1日午前入試での第一志望生優遇扱いを廃止します。人気が上がったことからできる決断です。

このほか、英語入試の回数を減らしたり、定員配分を一部変更などが入試の変更点です。模試では男女・各コースとも希望者が増えています。希望者の学力層も全体に上昇していますが、特に女子は高学力層の希望者の増加が目立っています。男女・各回次とも難化は確実で、特に2月1日午前はしっかりした力がないと合格は難しくなります。要警戒校です。甘く見ないでください。

戸板と同様に女子校が共学化して大幅にリニューアルされ、一気に人気校になった先輩格の東京都市大等々力は、今春最上位コースとしてS特選コースを新設、また、英語入試も開始するなど、グローバル化対応を進めています。S特選、特選、特進の3コース制ですが、特選コースと特進コースはレベル差が小さくなってきました。来春は2月2日午後の特選特進入試と3日午後のS特選入試を入れ替えるなどの変更があります。模試では全体的に希望者が増えています。特に男子のS特選コースで高学力層の数が増えていること、上位校との併願前提の希望者の増加が男女とも目立ちます。2月1日午後・2日午後のS特選入試は、もともと難度の目標レベルを決めて実施する入試ですから、応募者が増えても今春並みの難度が見込まれますが、特選・特進入試は各回次とも少し難化するかもしれません。注意が必要です。

東京農大第一は特に入試に変更はありません。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、総じて他校併願前提の希望者は高学力層を中心にやや減少、同校を高い志望順位で考えたい受験生はあまり変化がないようです。2月1日午後の第1回は昨年並みの難度だと思われませんが、2日午後の第2回はやや入り易くなるかもしれません。4日午前の第3回は少定員で、難度に変化はなさそうです。成城学園は定員を一部変更していますが、大きな変更ではありません。模試では男女とも希望者がやや増えていて、人気が上がっているようです。男子は2月1日の第1回、3日の第2回ともやや難化するかもしれません。女子の希望者増加は男子ほどできなく、難化はしないと思われませんが、注意するにこしたことはないでしょう。

青稜は帰国入試を新設し、各回次の定員配分を変更しますが、大きな影響はありません。模試では男女とも希望者が増えていて、特に併願前提の希望者で高学力層の増加が目立ちます。併願前提ですから、各回次の難度は今春とあまり変わらないと思われませんが、やはり注意した方が良さそうです。文教大付属も帰国入試を新設し、定員配分を変更します。このところ人気の上昇が目立つ同校ですが、来春に向けては女子の人気に陰りが出てきたようで、模試では他校併願前提の女子の希望者がやや減っています。男子も他校併願前提の希望者がやや減っていますが、その分志望順位が高い希望者が少し増えているようです。他校併願前提の受験生は、同校の場合、少々増減しても難度に与える影響が小さく、各回次とも今春並みの難度になりそうです。

立正大付属立正は適性検査型入試と英語選択入試を新設します。模試では男女とも希望者の動向に特に変化は見られません。各回次とも今春並みの難度になりそうです。多摩大目黒は特進・進学コース制で、午後の特進特待入試が人気の中心です。来春は2月6日に特待入試を増設します。模試では男子の希望者が少し減っているようです。女子はあまり変化が見られません。進学コースはやや入り易くなるかもしれません。特待の特進コースは、性格上応募者が少し減っても難度に変化はなさそうです。日本工大駒場、目黒学院、松蔭、高校を設置していない清明学園は、入試に一部変更が見られる学校もありますが、概ね人気に変化は見られず、各校・各回とも今春並みの合格ラインになりそうです。

国立の学芸大世田谷は入試に特に変更はありません。都立公立中高一貫校増加のあおりで以前ほどの人気ではなくなってきましたが、来春に向けては男子の模試の希望者がやや増えているようです。女子に目立った変化は見られません。ただ、男子も難化するほどの動きではなく、男女とも今春並みの難度でしょう。都立の一貫校、桜修館も来春の選抜に特に変更はありません。女子の人気にやや陰りが出ているようですが、高倍率の人気校ですから少々応募者が減っても入り易くはなりません。男女とも今春並みの難度でしょう。

7. 千葉湾岸・東部地区

- 総武線・京葉線・東西線
 ・都営新宿線・京成線周辺エリア

【男子校 なし】

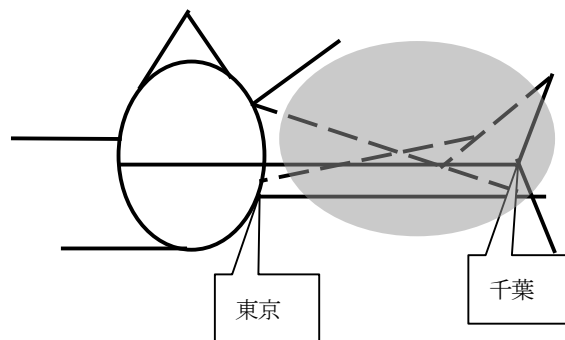
【女子校】

国府台女子、和洋国府台とも、入試に特に変更はありません。国府台女子は隔年現象が見られる学校で、昨年のこの時期は模試での希望者がやや減っていましたが、今年は増えています。もともと12月の推薦入試は高倍率ですから、厳しい入試になりそうで、一般入試もやや厳しくなるかもしれませんが、目立って合格ラインが上がることはなさそうです。和洋国府台は模試での希望者数にあまり変化は見られません。各回とも今春並みの難度でしょう。

【男女校】

公立一貫校では全国トップレベルの県立千葉は相変わらず高い人気です。来春は東葛飾が開校することもあって、特に船橋市など、県立千葉と東葛飾の中間に位置する地域では、東葛飾を選ぶ動きも見られ、応募者は減るかもしれませんが、それで入り易くなる学校ではなく、来春も高難度の選抜でしょう。市立稲毛は、男子の人気にやや陰りが見られ、女子は少し人気が上がっているようです。高倍率の学校ですから、来春も難度に変化はなさそうです。国立の千葉大附属は、模試ではやや希望者が減っているようです。中学のみであることが影響しているのかもしれませんが、やはり比較的高倍率なので、少々応募者が減ったとしても、入り易くなることはなさそうです。

この地域の私立トップ校は渋谷幕張で、ハイレベルな入試が続いています。来春に向けては入試に特に変更はありません。模試では男子の希望者が増えているようです。昨年同時期は女子の人気が少し上がっていて、交互の変化です。もともと高難度なので、合格ラインそのものはあまり変わらないと思われませんが、厳しい入試でしょう。東邦大東邦は2017年度から高校募集を停止して、千葉県初の完全中高一貫校に移行します。この関係で、来春は前期の定



員が拡大されます。模試では同校を挑戦受験で考える学力層の希望者が男女ともやや減っているようで、このまま推移すると「受験生が絞られた」入試になるかもしれません。定員が拡大する分、前期は若干入り易くなるかもしれませんが、高難度の入試でしょう。後期は今春並みの難度になりそうです。

市川は帰国入試の日程が変更されます。模試では、やはり同校が挑戦受験になる学力層の希望者が男女とも少し減っていますが、第1回は幕張メッセを使うマンモス入試ですから、少々応募者が減っても、やはり大規模な入試になりそうです。第1・2回とも今春とあまり変わらない難度になりそうです。昭和学院秀英も入試に特に変化はありません。模試では男子の希望者がやや減って、女子は少し増えているようですが、12月の第1回・第一志望入試は来春も高倍率の厳しい入試になりそうです。一般入試の第2・3回も倍率水準が高いので、厳しい入試が見込まれます。

千葉日大第一は日大系列校の中でも附属カラーが強い学校です。同校は2月の入試を廃止し、12月に第一志望入試を新設します。近年では、東海大浦安や二松学舎大附属柏が、もともと設定していなかった12月の第一志望(推薦・専願)入試を実施するようになっていますが、同じ流れで、志望順位が高い受験生を早期に合格させよう、という入試です。12月の入試は従来よりもやや入り易い入試になることが見込まれます。1月の第1期は今春並みの合格ライン、第2期は定員が減ることと、模試では女子の人気が少し上がっていることから、やや難化するかもしれません。東海大浦安は、千葉日大第一の変更を先取りした学校で、来春の入試では特に変更はありません。模試によって、希望者の増減に違いが見ら

れますが、12月の推薦も含め、各回とも難度は今春とあまり変わらない水準でしょう。

日出学園は比較的小規模の進学校です。同校も特に入試に変更はなく、模試での希望者にも特に目立つ動きは見られません。各回とも今春並みの難度でしょう。昭和学院も入試に大きな変更はありません。模試では希望者が増えていて、人気が上がっているようです。1月の一般1回はやや難化するかもしれません。12月の推薦、1月の特進特待生、2月の一般2回は今春並みの難度でしょう。東京学館浦安は2月のIV期の日程が変更されますが、大きな影響はありません。模試での希望者数も目立つ変化はなく、各回とも今春並みの難度になりそうです。千葉明德は1月24日に適性検査型入試を新設し、1月28日の入試を廃止します。1月24日は市立稲毛の選抜検査日で、県立の一貫校も適性検査の2回目を実施されますから、この適性検査型は県立の一貫校の1次不合格者をターゲットにした入試でしょう。模試では男子の希望者がやや増えているようですが、今春中高一貫1期生が高2になった段階で、まだ卒業後の実績が出ていないこともあって、各回とも難度は今春並みになりそうです。

成田高附属は特に入試に変更はありません。模試の希望者数は、女子が少し増えているようです。ただ、難化することはなさそうで、そのまま推移しても今春並みの難度になりそうです。八千代松陰は1月21日の入試を2科から2科4科選択に、25日の入試を2科4科選択から4科に変更します。21日の変更は、今春取りやめになった1月22日の4科受験の復活のようなものですが、全体に科目増加傾向の変更です。模試によって希望動向に違いが見られますが、全体的に女子の人気が上がっているようです。特に女子は希望者の学力層が少し上がっているため、12月の推薦入試は難度に変化がなさそうですが、1月・2月の一般入試はやや難化するかもしれません。注意した方が良さそうです。秀明八千代は入試に特に変更はなく、模試での人気にも目立つ動きはありません。各回とも今春並みの難度でしょう。

木更津の志学館と暁星国際、今春千葉国際から改称した君津の翔凜はいずれも寮制の学校です。一部に入試日程や科目の変更もありますが、人気に特に変化は見られず、各校各回とも今春並みの難度になりそうです。

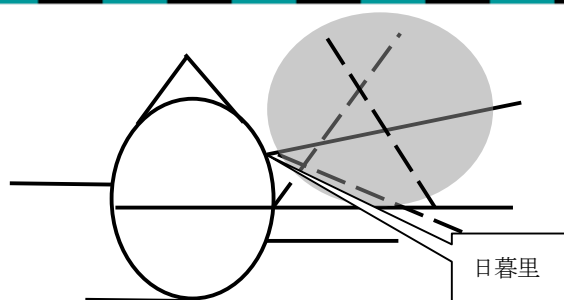
8. 千葉北部・茨城南部

- 常磐・北総・東武野田線(千葉県内)
・つくばエクスプレスエリア

【男子校 なし】

【女子校】

聖徳大附属女子はS選抜特待(適性検査型ではない方)の日程を1日前倒しにしますが、入試情勢にほとんど影響はありません。模試ではS選抜や選抜の希望者がやや増えています。併願の受験生が多いことから、難化はしないと思われます。同校の系列校、藤代の聖徳大附属取手聖徳女子は曜日に合わせて一部の入試日程を若干移動しますが、人気に変化は見られません。各回とも今春並みの難度になりそうです。



【男女校】

この地域の最大の話題は、県立東葛飾高校に中学が開校、中高一貫化することです。県内3校目、東葛地区としては初めての公立一貫校になります。以前から告知が進んでいたこともあって、受験生への浸透度も十分です。模試では、初秋の時点での希望者数が、晩秋に向かうにしたがって少し減っているようですが、思ったよりも希望者が多いと思った受験生が、希望先を変更するようになってきたためでしょう。それでも人気は高く、多くの受験生が集まって、高倍率になりそうです。難度の面では、県立

千葉よりも受験生の学力層がやや低いようですが、高倍率が予想されますから、最終的には県立千葉に近い水準になりそうです。茨城県側の並木中等は進学実績が高く、安定した人気が続です。来春も今春並みの難度になりそうです。

私立は千葉県側から見ていきます。芝浦工大柏は新たに上位コースとしてグローバルサイエンスクラスを新設、2コース制となります。模試では、一般クラスは希望者がやや減っていますが、コース制となったからで、グローバルサイエンスクラスに関心がある受験生が増えているようです。グローバルサイエンスクラスは一般クラスより1ランク上の難度になりそうですが、一般クラスも希望者の学力が底上げ傾向で、やや難化するかもしれません。なお、2月の同校3回は、以前実施していたような作文入試に戻ります。通常の教科のテストでは見られない力を見るのが狙いです。専修大松戸は特に入試に変更はありませんが、模試では特に女子の希望者が増加しているようです。併願受験生が多いので、特に難化はしないと思われそうですが、各回とも注意した方が良さそうです。麗澤は今春、上位コースとしてA Eコースを新設、在来コースはE Eコースとし、入試を増設しました。来春に向けては、E Eコースに英語入試を追加します。グローバル対応です。男女とも人気はさらに上がっているようで、模試ではE Eコースの希望者が増えていますが、やはり併願受験生が多くなることから、A E、E Eとも特に難度に変化はなさそうです。

二松学舎大附属柏は、今春グローバルコースを新設して、グローバル、特選、選抜の3コース制となりましたが、今春の入試結果ではグローバルコースは浸透がいま一つでした。来春に向けては、東京都内で増えている思考力型入試の実施や、今春まで回次によって募集コースが異なっていたものを、12月の第一志望入試を除いて、各回で各コース募集に切り替えるなどの変更が行われます。模試では特に目立った受験生の動きは見られません。各コース、各回次とも難度に変化はなさそうです。西武台千葉は専願入試と第2回で特選コースの募集を取りやめます。上位コース希望者は第1回を受験してほしい、

という変更です。受験エリアの地域が限られることから、同校も各回とも今春並みの難度でしょう。

茨城県側の私立です。沿線随一の進学校・江戸川取手は東大ジュニアコースと医科ジュニアコースを新設、従来のコースを難関大ジュニアコースとします。3コース制ですが、東大ジュニア、医科ジュニアから難関大ジュニアへのスライド合格はあっても、東大ジュニアと医科ジュニアの間ではスライド合格を行わないことからわかるように、この両コース間ではあまりレベルの違いは想定されていないようです。来春に向けては、スライド合格の影響から、難関大ジュニアコースの希望者が減って、東大ジュニア・難関大ジュニアに希望者が流れています。この両コースは、従来よりも1ランク上の難度になりそうですが、難関大ジュニアコースは、募集定員が削減されることから入り易くなることは期待できません。

茗溪学園は2017年の国際バカロレア認定をめざして準備中で、今春からグローバルコースを新設しています。グローバルコースは一般の入試からでも入学できますが、別途グローバルコース専用の入試も実施されています。科目は英検2級程度の英語のエッセイという特殊なものです。来春に向けては、曜日の関係で、一部の入試の日程変更や、2月の一般入試の廃止などが行われます。模試では希望者がやや増えているようですが、もともと固定ファンが多い学校ですから、各コース・各回次とも、あまり難化することはなさそうですが、注意した方が良さそうです。

今春開校した東洋大牛久は、同校には失礼ながら、受験界の予想を上回る応募状況でした。来春に向けては一部に日程の変更があります。来春は開校当初の人気が一段落してきた中で実施されますが、模試での希望者はやや増えています。しかし、希望者の学力層は少し下がってきているようです。入試では各回とも難度に変化はないと思われそうです。

土浦日大は以前から並木中等との併願者向けにS A T入試と称する適性検査型入試を実施していましたが、これを「茨城S A T」と改称、東葛飾の併願受験生向けに「千葉S A T」を11月28日に新設、

この入試は千葉・茨城県境に近い取手で実施します。そのほか、曜日の関係で一部の入試を変更しています。東葛飾の人気の高さから、「千葉SAT」も受験生が集まるかもしれませんが、併願受験生が多いことから、高難度になることはなさそうです。模試では、特に第1回の希望者の増加が目立ちます。希望者の学力層も上がっているようですが、やはり併願

受験生が多いことから、合格ラインは今春並みでしょう。常総学院と霞南至健は曜日による若干の日程変更があるだけです。常総学院は人気に変化は見られないようで、各回とも今春並みの難度でしょう。霞南至健は小規模な入試の学校ですが、やはり人気に変化は見られません。来春も今春並みの難度になりそうです。

受験コラム 2種類の「国際系」

グローバル化が叫ばれる中で、首都圏の中高一貫校にも、「帰国生」「インターナショナル」「グローバル」「国際バカロレア」などの名称で、海外帰国生や国内生でも一定水準の英語力を持った生徒に受け入れる学校が増えています。専用クラスを設置したり、こうした生徒たちを一般クラスに受け入れた上で、英語など、一部の教科は別指導（取り出し授業）を実施しています。国立の東京学芸大学附属国際は、学校が丸ごとこのようなクラスになっています。入試でも、こうした生徒たちを受け入れるために英語の入試を実施する学校が増えてきました。

さて、こうした「国際系」の指導には、大別して2種類あることをご存知でしょうか。

1つは、以前からある海外帰国生指導です。学校によって指導システムは様々ですが、例えば攻玉社の国際学級は帰国生だけでクラスを編成しています。ここでは、様々な学習履歴を持ち、個人差が大きい帰国生を、日本の教育体制に順応させ、日本の大学受験で目標大学に合格することが主目的になります。将来に備えて、せっかく身につけた英語力を低下させないように、というわけで英会話の個人レッスンがセットされている学校もありますが、目標はセンター試験に代表される日本の大学入試です。

もう1つは、近年増えてきたもので、インターナショナルスクールと似たような指導システムで、海外大学への進学が十分可能な実力を養成しようとするもので、玉川学園のIBクラスなどが代表例です。ここでは帰国生なら海外、欧米型の学習スタイルを失わないように、国内生なら欧米型の学習スタイルを身につけるように指導され、語学力の強化だけでなく、いわゆる日本型の詰め込みスタイルとは異なる協同・課題解決型の学習が行われます。もちろん、全員が海外大学に進学するわけではなく、こうした学習を経ても日本の大学に普通に進学する生徒も少なくありません。この場合、普通にイメージされる日本の大学入試ではなく、AO入試などの特別枠で進学するケースが多くなっています。

グローバル化で「国際系」の教育が注目されていますが、前者と後者では全く中身が異なります。言うまでもなく、グローバル化で注目されているのは後者です。学校選びの際はどちらなのか、しっかり説明を聞いた上で、将来の方向性を踏まえて判断することが必要です。

9. 埼玉(西部を除く)

○ 京浜東北・宇都宮・高崎・埼京
 ・東武伊勢崎・野田線(埼玉県内)エリア

【男子校 なし】

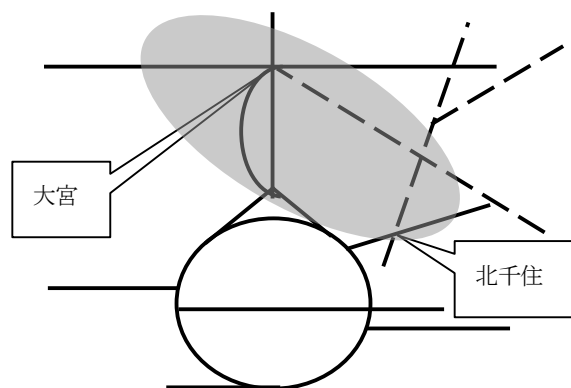
【女子校】

浦和明の星、淑徳与野とも入試に特に変更はありません。両校とも模試での希望者は昨年同期とあまり変わりません。両校の各回次とも今春とあまり変わらない難度でしょう。

【男女校】

応募者総数が1万人を超えている栄東は、東大クラス選抜I・IIの日程を1日ずつ後に送るほか、各回次の定員配分を変更しています。1万人を超える応募者、8,000人を超える実受験者、6,000人近くの合格者がいて、文句なしに日本一の規模の入試を行う学校ですが、募集定員は240名、合格しても入学するのはごく一部の典型的な併願校です。ですが、近年は大学合格実績が伸長し、アクティブラーニングなどにも積極的に取り組むなど、単なる進学校ではない一面が強調されるようになってきました。来春に向けても模試での希望者数は増加傾向で、特に女子が目立ちます。合格ラインは、併願受験生が大多数であることから、今春とあまり変わらない水準でしょう。開智は1月10日と11日の先端Aと一貫1回の順序を入れ替えます。模試での希望者数は模試によって傾向にバラつきが見られますが、全体的には少し減っているようです。同校も都内難関校との併願が多いため、合格ラインは先端・一般各回とも今春と大差ない水準になりそうです。

大宮開成は今春、2月に行なっていた英数特科2回を1月に繰り上げましたが、来春に向けては2月の入試に2回目の特待生入試を新設します。都内校との併願受験生を同校に向かうように、との策でしょう。模試での希望者はやや増えていて、人気が少し上がっているようですが、やはり難度は各回とも今春並みになりそうです。埼玉栄は医学クラスを新設するほか、帰国生入試も明文化して位置づけます。入試日程や定員配分も一部変更が出ています。医学



クラスは2月入試を除いて難関大クラス入試と同時に実施され、レベル差もあまりないと思われます。模試では難関大クラスの希望者は昨年とあまり変わっていませんが、進学クラスは少し増えていて、人気が上がっています。ただ、やはり都内校との併願受験生が多く、各回次の難度は今春並みでしょう。

浦和実業はいったん廃止した2月の入試を復活、1月16日の第3回を適性検査入試に変更するなどの変更があります。適性検査入試は日程からもわかるように、市立浦和や伊奈学園との併願受験生よりも都内の公立一貫校との併願受験生を念頭に置いたものです。この適性検査入試は多くの受験生が集まるかもしれませんが、併願受験生が大部分でしょうから、あまり高い難度にはならないと思われます。他の回は、模試では男子の希望者がやや増えて、女子は少し減少傾向のようです。併願受験生が多数派ですから、各回次の難度は同校も今春並みでしょう。武南もいったん廃止した2月入試を復活します。開校3年目で、来春1期生が高1になりますので、まだ地元に着いたとは言えないようです。模試での希望者数も目立った変化はなく、やはり各回次とも今春並みの難度になりそうです。

国際学院も来春1期生が高1になるので、まだまだ中学受験校としての認知度が上がっていません。来春は一部の入試日程の変更や科目の変更がありますが、各回とも小規模な入試になりそうです。プロテスタント校の浦和ルーテルは昨年12月に北浦和から浦和美園に移転し、新校舎となりました。来春は日程等の変更がありますが、やはり小規模な入試になりそうで、両校とも難度に変化はなさそうです。

県東部の東武伊勢崎線・日光線方面では、獨協埼

玉は入試に特に変更はありません。模試ではやや女子の希望者が減っているようです。ただ、入り易くなるほどの減少ではなく、各回とも今春並みの難度でしょう。春日部共栄は2014年、GEコースとGSコースの2コース制とし、入試回次によって募集コースを分けていましたが、今春は遅い日程の入試を両コースとも対象とする総合選抜入試に変更しました。来春は総合選抜入試を全回に広げますので、結局最初から2段階で合格を出すことと同じことになってしまいました。模試での希望者は男子がやや増えているようですが、各回のGE・GSの難度は今春とあまり変わらないでしょう。

昌平は1月11日午後のTクラス2回を12日の午前に移し、11日の午後には適性検査型を新設、1月16日の入試を廃止します。11日午後の適性検査型は、市立浦和向けだけの勉強してきた受験生向けの併願入試の位置づけもありますが、むしろ国際バカロレアの中等教育プログラム(MYP)の実施に対応して、表現力のある受験生を迎えたい、との思いも大きいようです。模試での希望者数に目立つものはありませんので、難度は今春とあまり変わらないと思われます。開智未来は開校4年目の新しい学校ですが、開智の系列校で、受験界での認知度は高くなっています。来春は1月12日午前に未来型入試を新設しますが、科目は基礎計算・基礎読解・図解総合・課題総合となっています。東京で増えてきた思考力型や、県内でも実施校が出てきた適性検査型と、本質的にはあまり変わらない入試です。公立一貫校との併願よりも、今後求められる学力観に基づいた力を持つ受験生を迎えたい入試です。他の回次は入試の呼称や位置づけを変更していますが、大きな変更ではありません。模試でも希望者にあまり目立った動きは見られず、難度も各回次・コースとも今春並みでしょう。

県北方面では本庄第一が新規開校です。1月10日に単願・第一志望の作文入試と、公立一貫校併願前提の適性検査入試、1月17日と2月4日に一般的な2科4科選択の入試を行います。適性検査入試は県内の公立一貫校ではなく、伊勢崎市と隣接していることもあって、群馬県内の公立一貫校との併願を前

提とした入試です。中学受験生が多い埼玉県南部での出張入試は行わず、地元密着を目指します。中高一貫が前提ではなく、高校受験を念頭に置いたカリキュラムで、公立中学校+進学塾のライバルになるような位置づけの学校です(群馬県から栃木県にかけて見られるパターンです)。埼玉県北部から群馬県内にかけては、通常の私国立中学受験塾が少ないこともあり、模試では有効なデータがなかなかとれませんが、あまり高い難度にはならないと思われます。

本庄東高附属は、曜日の関係で一部の入試日程を変更するほか、各回の定員配分を変更しますが、大きな影響はありません。歴史が浅い学校ですが、難関大学合格者を輩出し、地元での存在感が増えています。県北部は模試での有効なデータがとりにくいのですが、安定した人気が続いているようで、各回とも今春並みの難度になりそうです。東京成徳大深谷も、一部の入試日程を曜日の関係で変更するだけです。今年開校3年目で、地元で中学受験校として根を下ろした、とはなかなか言いにくい状況です。各回とも難度に変化はなさそうです。

国公立では市立浦和の模試での希望者が、同校を挑戦受験で考える学力層の受験生を中心に、男女ともやや減っているようですが、比較的高学力層はあまり変化していません。このまま推移すると応募者が減るかもしれませんが、もともと高倍率の学校ですから、「受験生が絞られただけ」になるかもしれません。入り易くはならないでしょう。伊奈学園は首都圏初の本格的公立中高一貫校ですが、来春に向けても人気に大きな変化は見られません。「伊奈学園一本」の受験生が比較的多いこともあって、今春並みの難度でしょう。国立の埼玉大附属は、来春も今春とほぼ同じ入試です。模試では男子の希望者がやや増えているようですが、やはり難度の面ではあまり変わらない入試になりそうです。

☆

10. 埼玉西部

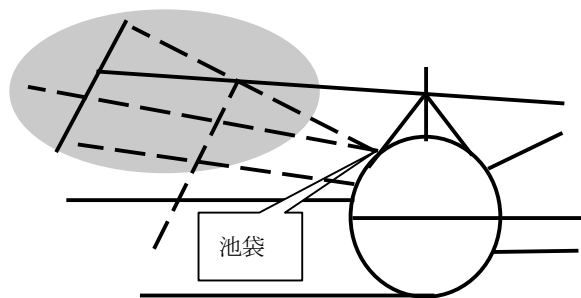
○ 川越・東武東上・西武各線周辺エリア

【男子校】

立教新座は入試に特に変更はありません。模試では希望者が増えていますが、もともと都内の附属校との併願が大変多い学校ですから、難度はあまり変わらないと思われます。城北埼玉は今春、1月10日午後算理の特待生入試を新設、さいたま市でも入試を実施するなどの変更がありました。来春は特に入試に変更はありません。模試では昨年より希望者が少し減っているようで、人気が一段落しているようです。特待入試の難度は変わらないと思われますが、一般の入試はやや入り易くなるかもしれません。城西川越は第3回入試日程を1日繰り上げますが、大きな変更ではありません。特別選抜と一般の2コース制ですが、模試では特別選抜の希望者が増えています。ただ、併願受験生が多いことから、難化はしないでしょう。一般の入試も難度に変化はなさそうです。

【女子校】

大妻嵐山はセレクト入試を進学コース入試としてハードな受験勉強をしていなかった生徒向けの入試とするほか、スーパーアドバンス入試を4科から2科4科選択とし、日程を繰り上げるなどの変更があります。受験生への門戸を広げるような変更です。同校は、開校当初は高い人気になり、東上線の都内区間からも通学者が珍しくありませんでしたが、川越周辺の学校が巻き返しに出て、都内や川越市など、東上線南部からの受験生がかなり減っていて、その影響から、受験生への門戸を広げざるを得なくなっています。模試ではスーパーアドバンスの希望者がやや増えているようですが、併願受験生も多いことから、スーパーアドバンス入試や奨学生入試は今春並みの難度を維持するものの、一般入試や進学コース入試はやや入り易くなるかもしれません。



【男女校】

星野学園は理数選抜と進学コースの2コース制です。来春はそれぞれのコースの3回目の入試を、1月14日に総合選抜として一本化します。ただ、埼玉県の中入学入試は1月10・11日がピークで、そのあとは応募者が大きく減りますから、あまり大きな影響はありません。模試での希望者に目立った動きは見られませんが、女子の進学コース希望者の学力水準がやや上がっているようです。来春の入試で難化するかどうかは何とも言えませんが、注意した方が良さそうです。理数選抜は今春並みの難度でしょう。狭山ヶ丘高附属は1期生が現在中3の新しい学校ですが、高校には独特の固定ファンがいることもあって、地元では中学受験校として定着しつつあります。来春は1月17日の入試を16日に移すほか、定員配分を変更しますが、大きな影響はありません。模試での希望者にも目立つ点はなく、各回次とも難度に変化はなさそうです。

西武台新座も1期生が現在高1の新しい学校で、来春の入試は大きな変更はありません。模試でも希望者は昨年並みです。特選・特進の2コース制ですが、残念ながらさいたま市など県南部の他校に押され気味で、特選は今春並みの難度になりそうですが、特進はあまり高くない難度になりそうです。プロテスタント校の聖望学園は今春、都内生向けの適性検査型入試を新設して注目されました。来春は2月入試の日程を変更しますが、大きな影響はありません。同校も模試の希望者に目立つ変化はなく、今春並みの難度、遅い日程は少し入り易くなるかもしれません。

東京農大第三も中学1期生が現在高2の新しい学校です。開校当初こそ高い人気でしたが、大妻嵐山

☆

と同様に川越周辺の各校の巻き返しで、受験生が減少気味です。来春は、最終回の日程変更や定員配分の見直しがありますが、大きな変更ではありません。模試によって希望者の動きにバラつきが見られますが、各回とも難化することはなさそうです。埼玉平成も川越周辺に受験生が流れていて、受験生は減少気味です。S選抜とA進学の2コース制で、来春は1月10日の午後入試を適性検査型とするほか、1月後半の入試を廃止します。同校も模試での希望者に特に変化は見られず、S特進はそれなりの難度だと思われそうですが、A進学は比較的入り易い難度でしょう。

寮制の秀明は医学部、難関国立、総合進学のコース制を文理とスーパーイングリッシュの2コース制とし、4科入試をとりやめ、2科または英国の選択になります。AOで夏から入試を行っていること、全寮制の特殊性から、難度に変化はなさそうです。独特な教育方針の自由の森学園も一部の入試日程の変更や学科の変更がありますが、こちらも今春並みの難度でしょう。

最後に西武文理です。同校は帰国生入試を明文化して位置づけるほか、特選入試の一部の科目を2教科+英語とするなどの変更点がありますが、読者の皆さんもご存じのように、9月初旬に学園長・小学校長をめぐる不明朗な会計処理が報じられ、特に同校を併願受験や、2月からの都内校入試に備えた準備受験で考えている受験生に大きな影響を与えました。模試での希望者数は男女とも減少しています。同校でも再発防止、経営健全化に向けて取り組んでいます。一度信頼が失われると回復には時間がかかりますから、来春は応募者の減少は避けられないでしょう。模試での希望者数は全体的に減少していますが、特選入試の一部に目立って増加している回次があります。おそらく、応募者減少を見越して、特選入試が入り易くなるのではないかと期待した受験生ではないかと思われます。しかし、一時のトラブルでコースのレベルを変えては学校そのものが存続できなくなりますから、入り易くなることはないでしょう。一般入試も、たとえ入学者が減っても、目立って入り易くなることはないと思われます。

11. 地方の寮制各校東京入試

この項では暁星国際や秀明など、首都圏内の寮制校ではなく、首都圏外の各校を取り上げます。首都圏内の各校はそれぞれの所在県のページをご覧ください。

今春は鹿児島県の公立一貫校、楠隼(なんしゅん)が新設開校で、東京でも入学者選抜を実施したことが注目されました。公立一貫校初の寮制で、しかも男子校という珍しい学校です。JAXA(宇宙航空研究開発機構)の協定校で、学校独自教科として「シリーズ宇宙学」を実施することが注目され、首都圏からも入学者がいました。来春も今春並みの入試になりそうです。

私立では来春に向けて、新規に首都圏で入試を実施する学校はありませんが、広島の水鏡が首都圏入試を取りやめます。今春、東京での入試を1月13日から2月に移しましたが、学校側が期待する状況ではなかったようです。

早稲田系2校、早稲田佐賀と早稲田摂陵の入試増設が注目されます。まず早稲田佐賀は、今春は1月18日だった入試を来春は1月10日に繰り上げます。首都圏の寮制入試は1月8~10日が主流で、18日はやや遅い日程ですが、お試し受験の受験生の増加を狙ったものでしょう。そして2月6日に東京の早大で志望順位が高い受験生向けの新規入試を2科で新設します。都内の早稲田系各校不合格で、ぜひとも早稲田の附属に、という受験生向けの入試です。早稲田摂陵は、昨年は1月17日と2月8日午後実施していた首都圏の入試を、来春は1月16日、2月2日午後、2月7日午後の3回とします。2月2日午後が新設になります。こちらも2科での入試です。この入試はお試し受験が多い1月に対して、もう少し志望順位が高い受験生が狙いですが、2月7日では遅いとして、2日午後にも新設するものです。

早稲田系2校の場合、他の学校よりも比較的志望

順位が高い受験生の割合が高いのが特徴です。都内の早稲田系の各校を第一志望とし、寮制校を第二志望にしている、何とか早稲田の系列校に入学したい、という受験生です。しかし、都内の早稲田系各校に不合格で、寮制校には合格しても、いざ入学手続きとなると躊躇して、結局首都圏の進学校に進学するケースも多く、こうした動きに対して、少しでも受験生への門戸を広げていこう、というのが両校の狙いです。しかし、2月の入試に多くの受験生が集まるとは考えにくく、小規模な入試になりそうです。1月の入試も、日程繰り上げで早稲田佐賀は受験生が増えそうですが、摂陵も含めて、特に難化することはないでしょう。

静岡聖光も首都圏での入試を増設します。1月10

日午後で、特待生入試です。男子校では、海陽学園が、特別給費生試験として、通常的首都圏の入試(12月と1月の2回)とは別に入試を行っていますが、こうした入試と目的は似ています。特待生入試ですからそれなりの難度の入試になりそうです。一般の東京入試は例年並みの難度でしょう。

このほか、海陽学園、函館ラ・サール、札幌聖心、函館白百合、盛岡白百合、秀光中等、片山学園、佐久長聖、不二聖心、西大和学園、愛光、土佐塾、長崎日大、宮崎日大とも、曜日の関係で一部の入試日程が変更されているケースかありますが、首都圏での入試の位置づけに変化はなく、競合関係もあまり変化はありませんので、難度面では変化はなさそうです。

12. 東京多摩南部

○ 小田急・京王多摩線エリア
(稲城・多摩・町田市)

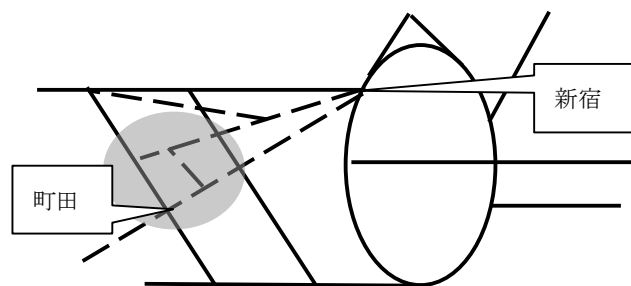
【男子校 なし】

【女子校】

大妻多摩は国際生入試を新設しますが、一般の受験生には影響はありません。2月1日午後入試は昨年同期とあまり変わらない希望状況ですが、他の回次はいずれも希望者が増えています。ただ、2月1日午前・午後とも高学力層の希望者が少し減っていて、サンデーショックの戻りの現象でしょう。2月1日午前・午後は今春並みの難度になりそうですが、2月2・4日の第2・3回はやや難化するかもしれません。注意したい学校です。駒沢学園女子は午後のスカシップ入試の4科を取りやめるなどの変更がありますが、人気動向に変化はなく、今春並みの難度でしょう。

【男女校】

桜美林は各回次の定員配分を変更するだけで、特に影響はありません。模試では男子の希望者が増えていて、女子は回次によって昨年同期並みか、少し減っている回次も見られます。併願受験生が多いことから、難度面では各回次とも今春並みでしょう。



日大第三は2月3日に入試を新設します。以前は2月2日が初日で3回入試を実施する、併願受験生が多い学校でしたが、段階的に2月1日が初日で2回の実験を実施する、志望順位の高い受験生を集める入試に切り替えてきました。しかし、人気は低下していることから、3回入試に戻すものです。模試では志望順位が高い女子の希望者がやや増えているようですが、総じて希望者は減少気味で、人気低下に歯止めがかかっていないようです。各回次ともやや入り易くなるかもしれません。

多摩大聖ヶ丘は入試に特に変更はありません。模試では男子の併願前提の希望者がやや増えているようですが、女子や男子でも志望順位が高い希望者は少し減っているようです。各回次もやや入り易くなるかもしれません。玉川学園も国際学級の定員一部が変更になっているだけです。模試では男子の志望順位が高い希望者がやや減っていますが、女子と男子の併願前提の希望者は少し増えているようです。ただ、入試が難化するほどではなく、各回次とも今

春並みの難度になりそうです。国際学級(インターナショナルバカロレアクラス)入試も例年並みの難度でしょう。和光は小規模な入試の学校で、来春は長

年の2科入試から2科4科選択入試に切り替えますが、来春も小規模な入試になりそうです。

13. 東京多摩北部

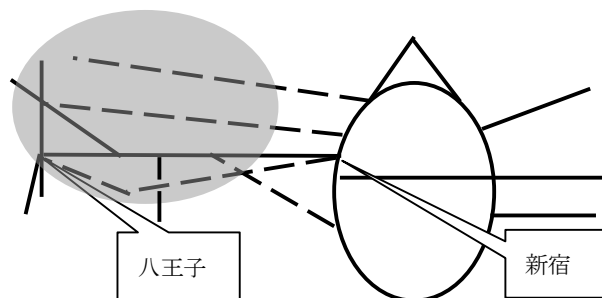
○ 中央・京王・西武各線周辺・八王子
エリア(稲城・多摩・町田市を除く)

【男子校】

この地域の最大の話は、桐朋がいよいよ2回入試にすることでしょう。2回目は2月2日で、2月1日の第1回はインターネットで当日発表となります。桐朋は地域トップの進学校ですが、都心の他校に押され気味で、近年は入り易くなってきました。レベルアップを図っての変更です。模試でも第2回の希望者は多く、受験生の関心の高さがわかります。第1・2回とも今までの同校よりも難化することは確実です。明法はGEクラス・明法クラスの2コース制です。2月2日午前入試を廃止、2月4日入試を3日午後に前倒しするなどの変更があります。模試の希望者に目立つ動きはなく、GE・明法各回次とも今春並みの難度でしょう。カトリック校のサレジオ(小平)は小規模入試です。来春も今春並みの難度でしょう。

【女子校】

吉祥女子は入試に特に変更はありません。定員を一部変更しますが、入試日程や科目に変更はありません。模試では2月1日の第1回の希望者が減少、2月2日の第2回は増加していますが、サンデーショックの戻りの現象です。通常、こうした「予想される変化」に対しては、募集定員の配分を調整するのが一般的で、同校も昨年から今春に向けては、サンデーショック関連で定員配分を変更しています。それが今回定員を変更していないのは、鷗友学園が入試回数を削減し、日程を変更したために受験生の動きが変わることへの対応でしょう。2月1日の第1回は応募者が減るかもしれませんが、目立って入り易くなることはなさそうです。2日の第2回と4日



の第3回は少し難化するかもしれません。

カトリック校の晃華学園は今春、2月2日の入試を廃止して2回入試としました。来春は定員配分が一部変わるだけです。模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、サンデーショックの戻りの影響もあり、2月1日の第1回は応募者が減るかもしれません。ただ、実際に減ったとしても入り易くなるほどの影響はなさそうです。2月3日の第2回も今春並みの難度でしょう。同じくカトリック校の東京純心女子は2月2日午後入試を午前に移すなどの変更があります。同校も模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、いずれも難度に影響を及ぼすほどではないようで、各回次とも今春並みの難度になりそうです。

武蔵野女子学院は今春、特待のMJスカラ入試をとりやめ、選抜進学と総合進学の2コース制としました。受験生へ浸透はいま一つでしたが、来春は2月1日午後総合進学入試と2日午後選抜進学入試を入れ替えたり、2月4日に選抜進学入試を増設するなどの変更があります。模試では総合進学コースの希望者が少し増えていて、選抜進学コースも早い日程は希望者がやや増えています。ただ、選抜進学・総合進学コースとも難化するほどではないようで、両コース・各回次とも難度はあまり変わらないと思われます。共立女子第二は入試に特に変更はありませんが、模試では各回次とも希望者数が増えていて、人気が上がっているようです。難化するかどうかは微妙なところですが、2月1日午前はともかく、他の回次は注意した方が良いでしょう。

桐朋女子も入試に特に変更はありません。口頭試

問のウェイトが高い独特の入試を長年続けてきた同校ですが、これが受験生離れを起こし、4科入試を別途新設、今春はこのB入試を2月2日午後に移しています。模試では口頭試問のA、4科午後入試のBとも希望者が少し減っていて、なかなか人気復活とはなっていないようです。模試では難度が図りにくいAは別として、Bはやや入りやすくなるかもしれませんが。白梅清修は英語選択入試の増設や遅い日程の整理、藤村女子は特待のプレミアム入試を特別選抜・特進クラス入試に統合などの変化はありますが、模試では目立った変化は見られず、各校・各コース・各回次とも今春並みの難度でしょう。文華女子や桜華女学院は小規模な入試で、来春に向けて変更点もありますが、やはり小規模な入試でしょう。

【男女校】

附属カラーの強い学校から。早稲田実業は入試に特に変更はありません。模試では男子の希望者がやや増えているようです。女子はあまり変化がなく、安定した人気です。もともと高難度ですから、さらに難化する可能性は少ないと思われませんが、来春も厳しい入試になるでしょう。明大明治も入試に特に変更はありません。模試では男女とも2月2日の第1回は希望者が増加傾向、3日の第2回は、男子は増えています。女子はやや減っているようです。附属校志向が強くなっていること、後述の明大中野八王子から受験生が流れているためですが、女子の第2回の減少は、入試の早期終了傾向の影響でしょう。第1回は男女とも難化するかもしれません。高倍率校ですから第2回もやや難化する、と考えた方が良いでしょう。要注意校です。同じ系列の明大中野八王子も特に入試の変更点はありません。来春に向けては希望者が明大明治に流れているようで、模試では男女とも希望者が減っています。明大志向の強い受験生の多摩地区内での流れは、隔年的に変化しているようで、昨年同期は逆でした。男女とも2月1日の第1回はやや入り易くなるかもしれません。3日の第2回は募集定員が少ないこともあって、入り易くなることは期待できません。

中大附属も特に入試の変更点はありません。模試では全体的に比較的高学力の希望者が男女とも少し

増えていて人気が上がっていますが、同校を挑戦受験で考える学力層の希望者はやや減って、敬遠ムードも見られます。このまま入試を迎えると、2月1日の第1回、3日の第2回とも、応募者数があまり変わらなくても難化する、「受験生が絞られた」状態になるかもしれません。要注意です。法政大学も入試に特に変更はありません。模試では男子が各回次とも希望者増加、女子もやや増加傾向ですが、特に2月3日の第2回で高学力層の希望者が目立ちます。女子の希望者が男子ほど増えていないのは、系列校の法政第二が来春から共学化する影響でしょう。各回次とも男子はやや難化しそうで注意が必要です。女子は第2回が難化しそうですが、もともと同校は女子の方が高難度ですので、1日の第1回、5日の第3回も注意した方が良さそうです。創価も特に入試に変更はありません。独特の人気の学校ですから、来春も今春並みの合格ラインになりそうです。

他大学進学も多い附属校では、成蹊も特に入試に変更はありません。模試では男子の希望者が増えていて、人気が上がっているようですが、女子は逆にやや減っています。男子はやや難化するかもしれません。女子は、もともと同校が女子の方が高倍率になっていることから、入り易くなることは考えにくく、今春並みの難度だと思われそうです。東京電機大も特に入試に変更はありません。男子は模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、女子は総じて希望者が少し増えているようです。同校は特に男女別の定員としているわけではありませんが、女子の入学者を増やしたい、とのことで、今春まで入試の出題傾向を変えるなどの対策をとってきていますが、効果が表れてきたようです。こうした事情なので、女子は応募者が少々増えても難化することはなさそうです。男子も今春並みの難度でしょう。

帝京大学も入試に特に変更はありません。男子は模試によって希望者の動向にバラつきが見られ、女子は希望者が少し減っているようです。男女とも併願前提の高学力層の希望者は減少気味で、各回次ともやや入り易くなるかもしれません。プロテスタント校の明治学院は今春、サンデーショックでしたが入試を動かさませんでした。来春に向けても入試に

変更は特にありません。模試では男女とも2月1日午後の第1回の希望者の増加が目立ちます。2日午前・4日午前の第2・3回はあまり目立った変化は見られず、午後入試の性格上、第1回を含めて各回次とも難度に変化はなさそうです。明星はグローバル対応のMGSクラスを新設、既存のクラスを本科として2コース制とします。志望順位が高い受験生が多い2月1日を2科4科選択から2科とします。模試では各回男女とも希望者に変化は見られません。MGSは本科より1ランク高い難度になりそうですが、本科は各回次とも今春並みの難度でしょう。

工学院大附属は今春、ハイブリッドインター、ハイブリッド特進、ハイブリッド特進理数の3コース制とし、国際バカロレアの趣旨を生かす教育を開始して注目されました。来春は2月1日の選択の思考力入試を、算数の併用から思考力単独にするなどの変更がありますが、大きなものではありません。模試ではやや男子の希望者が減っているようです。女子は変化が見られません。学校としてのレベルの維持もありますから、少々応募者が減っても難度は各コース・各回次とも今春並みになりそうです。東海大菅生は入試に特に変更はなく、帝京八王子も軽微な変更だけです。両校とも特に人気に変化は見られず、各回次とも今春並みの難度でしょう。国立音大附属は小規模な入試の学校で、やはり入試にいくつか変更はありますが、やはり来春も小規模な入試になりそうです。

純粋な進学校では、穎明館が定員配分を一部変更しますが、大きな変更ではありません。模試では各回次とも男子の希望者の減少が目立ちます。都心部の進学校をめざそうとする動きの影響かもしれません。

ん。女子は目立つ変化は見られません。各回ともやや入り易くなるかもしれません。八王子学園は東大医進クラスを新設、在来のクラスは一貫特進クラスとして2コース制にするほか、2月3日午後入試を午前に移します。模試では併願前提の男子の希望者がやや増えているようです。東大医進クラスは一貫特進クラスよりも1ランク上の難度になるでしょう。一貫特進クラスは希望者がやや増えても難化するほどではなく、今春並みの難度になりそうです。

聖徳学園はこのところ毎年のように入試を変更しています。来春は2月1日午前の第一志望前提の総合入試で英語を選択できるように変更します。模試での希望者に目立った動きはなく、各回次とも今春並みの難度でしょう。このほか、八王子実践や独特の教育方針の明星学園、寮制のプロテスタント校の自由学園男子部・女子部、同じくプロテスタント校で帰国生指導に実績のある啓明学園、カトリックで共学の東星学園、共生教育の武蔵野東など、ユニークな学校があり、いくつか入試の変更点もありますが、各校・各回とも今春並みの難度になりそうです。

都立一貫校の4校は入試に特に変更はありません。武蔵高附属は男子の、立川国際は女子の人気はやや上がっているようですが、もともと高倍率ですから目立って難化することはなさそうです。南多摩中等と三鷹中等は、模試等の違いで人気動向にバラつきが見られますが、やはり高倍率ですから入り易くなるとは考えにくく、やはり両校とも今春並みの難度になりそうです。国立の学芸大小金井は今春から4科入試になりました。来春に向けては入試に特に変更はなく、模試の希望者にも変化はなく、難度は今春並みでしょう。

ご参考に 仏教系学校一覧 宗派別

臨済宗……………鎌倉学園

時宗……………藤嶺藤沢

天台宗……………駒込

立正佼成会…佼成学園・佼成学園女子

日蓮正宗……………創価

曹洞宗……………駒沢学園女子・世田谷学園・鶴見大附属

浄土宗……………芝・淑徳・淑徳巣鴨・淑徳SC・淑徳与野

浄土真宗……………千代田女学園・武蔵野女子・国府台女子

真言宗……………成田高校附属・宝仙学園理数インター

日蓮宗……………立正大学附属立正・東京立正・文教大学付属

14. 栃木・茨城(南部を除く)

○ 宇都宮・両毛・常磐・水戸線沿線
北浦・鹿島地区、古河市

【栃木県女子校】

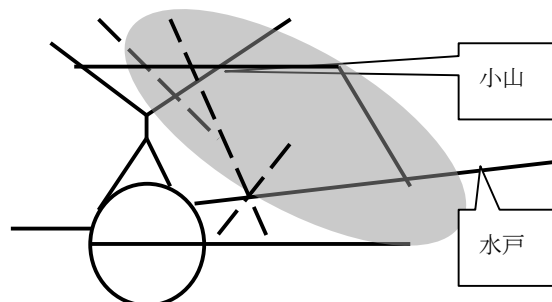
宇都宮海星女学院は14年度に新設した作文のみのAO入試を15年度は廃止しましたが、16年度は自己推薦として復活します。同校には失礼ですが、いったん廃止したものの、募集の面であまり改善が見られず、やはり実施、ということになったのでしょう。曜日の関係で第2回の日程が変更になりますが、第1・2回とも難化することはなさそうです。

【栃木県男女校】

宇都宮東、佐野、矢板東の公立一貫校3校と、国立の宇都宮大附属、宇都宮地区私立の宇都宮短大附属、作新学院、文星芸術大附属とも、曜日の関係で一部日程が変わった入試がありますが、それ以外に大きな変更はなく、人気動向も例年並みです。各校とも15年度とあまり変わらない入試になりそうです。両毛線沿線の私立では白鷗大足利は、最近群馬県側からの受験生が減少気味ですが、中高一貫コースの入試科目を各回とも2科+理科から2科のみに変更します。少しでも受験し易く、ということでしょう。日程は曜日の関係で1日~2日変更になっていますが、入試情勢には影響しません。中高一貫コースは科目変更もあってやや入り易くなるかもしれませんが。進学教育コースは難度に変化はなさそうです。国学院栃木と佐野日大も、日程が一部変更になるだけで、入試内容等に変化はなく、各回とも難度に変化はなさそうです。全寮制の幸福の科学学園は、その性格上、コメントは差し控えます。

【茨城県男女校】

曜日の関係で、各校とも日程が若干変更になった入試があります。水戸周辺では茨城が推薦入試を新設します。2科の基礎学力テストが入試科目です。4科の一般入試よりも入り易くなるでしょう。一般入試はその分定員が削減されますが、志望順位が高い受験生は一般入試から推薦に流れますから、後期はやや難化するかもしれませんが、前期は目立って難



化することはなさそうです。智学館は第1回で併願の適性検査型入試を新設します。日立第一の併願受験生に門戸を広げます。水戸近辺では初めての適性検査型入試です。応募者は増えそうですが、併願前提ですから、各回とも難化することはなさそうです。水戸英宏は専願・第3回が2科、第1・2回が4科の入試科目を、専願・第1・2回は4科または2科+英語、第3回は2科または算英に変更します。グローバル化に向けての変更ですが、やはり難化はしないと思われま。国立の茨城大附属は入試に大きな変更はなく、人気も特に変化は見られません。難度もあまり変わらないと思われま。

県北部では公立一貫校の日立第一も、私立の茨城キリスト教学園も、人気に特に変化は見られません。茨城キリスト教学園は帰国入試を新設しますが、あまり影響は大きくないでしょう。両校ともやはり今春並みの難度でしょう。県東部の鹿嶋市の清真学園は15年度に後期を廃止し、中学の募集定員を削減しましたが、16年度は帰国入試を新設するものの、それ以外は大きな変更はなく、やはり難度に変化はなさそうです。県西部の公立一貫校、古河中等は県内の他の私立中よりも埼玉・栃木県内の各校と競合関係にありますが、こちらも人気に変化は見られません。学校の認知度が上がっていますから、やや難化する可能性はあります。行方市の北浦三育、石岡市の青丘学院つくばも、全寮制で性格が特殊ですからコメントは差し控えます。

☆ ☆ ☆

15. 神奈川北東部

- 横浜周辺を除く東急線周辺
・厚木付近の小田急線周辺エリア

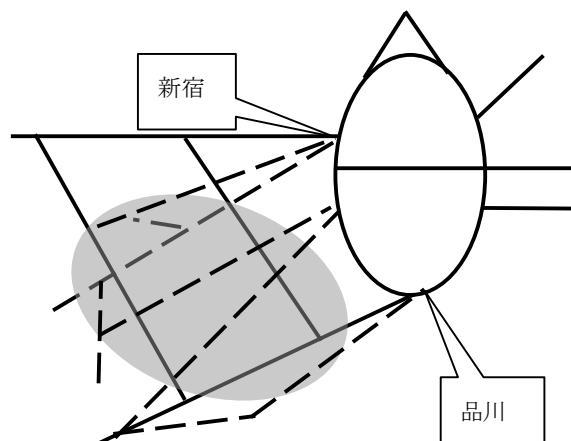
【男子校】

法政第二は共学化します。男女校の項をご覧ください。その他の男子校、慶應普通部とサレジオ学院は入試に特に変更はありません。首都圏附属校のトップ、慶應普通部は模試での希望者が増えています。大学附属校志向が高くなっているようです。少し難化するかもしれません。以前よりもやや入り易くなってきていましたが、来春については注意した方が良いでしょう。ソフトな進学校、サレジオ学院は、2月1日のAの希望者が模試ではやや減っています。4日のBはあまり変化が見られません。Aはやや入り易くなるかもしれません。Bは2月2日に難関校に挑戦した受験生が集まる入試です。来春も厳しい入試になりそうです。

【女子校】

洗足学園は定員配分を変更します。今春も定員配分を変更していましたが、サンデーショックへの対応で、来春に向けてはサンデーショック前に戻す動きです。模試では2月2日の第2回の希望者が大きく増加しています。ところが、1日の第1回は、模試によって昨年並みか、増加しているものも見られます。これは傾向の変化で、吉祥女子など他校では2日が増えて1日が減るのがサンデーショックの戻り現象ですが、洗足学園の場合は1日が減っていないどころかやや増加気味です。同校の定員配分も1日を減らして2日を増やしています。このまま推移すると、第1回は難化が見込まれます。第1回が難化すれば第2回や5日の第3回に影響しますから、これらの回次も難化するかもしれません。要警戒校でしょう。

カトリック校のカリタスは今春、2月1日の1回を7年ぶりに午後入試・2科に変更しましたが、来春は2月5日の第3回を4日に前倒しします。この第3回は2013年には7日でしたが、毎年1日ずつ早くなっています。模試では2月3日の第2回の希望



者が少し増えているようです。高学力層の希望者が目立っていて、やや難化するかもしれません。2月1日午後の第1回と4日の第3回は今春並みの難度でしょう。同じカトリック校の聖セシリアは2月4日の3次を3日午後に前倒しします。入試の早期終了傾向への対応です。模試では志望順位が高い希望者が少し減っているようで、その分、他校併願前提の希望者がやや増えていますが、入試が難化するほどではありません。2月1日午前の第1回は少し入り易くなるかもしれませんが、他の回次は今春並みでしょう。

日本女子大は特に入試に変更はありません。模試では2月1日の第1回の希望者が減少しています。昨年同時期は増えていましたから、隔年的な変化です。3日の第2回は、高学力層の希望者が減って、同校を挑戦受験で考えたい学力層の希望者が増えているようです。隔年的な変化で来春の第1回は応募者が減りそうだと睨んだ、志望順位が高い希望者が、第1・第2回とも絶対同校と考えて動いているのかもしれませんが。第1回は少し入り易くなる可能性があります。第2回は第1回の結果に影響されますが、難化することはなさそうです。相模女子大は2月1日午後と2日午後の2科4科選択を2科のみとし、2日午前は適性検査型に切り替えます。午後入試の4科廃止は、2科受験生の増加で遅い時間まで受験生を引っ張り、4科を実施する意義が薄れてきたことへの対応でしょう。ただ、4日午後の第5回は4科を残します。適性検査型は近隣の相模原中等との併願受験生への対応です。模試では早い日程の希望者が増加していますが、難化するほどではありません。

各回次とも今春並みの難度でしょう。

【男女校】

この地域最大の話題は法政第二の共学化です。以前から告知が進んでいたこともあって、受験生への浸透は十分です。男女別定員制で、男子は定員が175名から150名に減少、女子は60名と、男女のバランスはとれていません。男子は定員が少し減りますが、模試では共学校志向の希望者が増加していて、特に2月4日の第2回の増加が顕著です。女子は概ね男子の半数程度の希望者で、2月2日の第1回の男子は今春よりもやや難化しそう、第2回は難化ほぼ確実、女子は第1・2回とも男子よりも少し上の難度になりそうです。要注意校です。

その他の学校は附属カラーの強い学校から。中大附属横浜は今春2月3日午後の入試を廃止して2回入試になりました。来春は特に入試に変更はありません。男子は高学力層の希望者がやや増えていて、その分同校を挑戦受験で考える希望者が少し減少気味、女子は希望者がやや減っているようです。昨年同時期は女子の人気上昇が目立ちましたが、難化が進んで少し沈静化してきたのでしょうか。2月1日の第1回は少し難化するかもしれません。2日午後の第2回は今春並みの難度が見込まれます。東海大相模は長い間2月1日と4日の2回入試でしたが、今春3日午前に入試を増設して3回入試になりました。夏の甲子園で全国優勝を果たしましたが、もともとこうした活躍は中学受験生の増加に結び付きにくいこともあって、模試では男子の希望者がやや減っていて、女子は増えて人気が上がっています。ただ、女子の増加は入試が難化するほどではなく、各回とも今春並みの難度になりそうです。

日本大学はグローバル化対応のグローバルリーダーズコースを新設、在来コースはN.スタンダードコースと呼称し、2コース制となります。また、今春は2月1日午前、2日午後、5日午前の3回入試でしたが、1日午後を追加、4回入試になります。英語入試などは実施しませんが、グローバルリーダーズコースからN.スタンダードコースへのスライド合格も出します。コース制の発表時期がきわめて遅かったため、本稿執筆時点ではコース制が受験生への浸

透途上でした。したがって、模試での希望者の動向も、従来の単一コースを前提にしている、コメントするのが難しいのですが、グローバルリーダーズコースはN.スタンダードコースよりも1ランク上の難度、N.スタンダードコースも2月1日午前・午後は今春並みの難度、他の回はやや難化するかもしれません。

進学校や附属カラーの薄い学校では、神奈川大附属は入試に特に変更はありません。男子は模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、女子は他校併願前提の希望者がやや増えているようです。2月2日のAは難化しないと思われませんが、3日のB、5日のCはやや難化するかもしれません。森村学園も入試に特に変更はありません。模試では男子の希望者がやや増えているようです。女子にあまり目立った動きは見られません。ただ、男子も入試が難化するほどではなく、各回とも今春とあまり変わらない難度になりそうです。桐光学園は英語有資格者入試を新設しますが、入試に大きな変更はありません。模試ではやや希望者が減っているようです。男女とも2月1日の第1回はやや入り易くなるかもしれません。他の回次は併願受験生が多いこともあって、今春並みの難度でしょう。

桐蔭学園は男子部中等・従来型の定員配分を一部変更しますが、やはり入試には影響はありません。模試では男子部中等の、他校併願前提の希望者が増えています。従来型はやや減っているようです。女子部は理数・普通コースとも希望者に目立つ変化は見られません。男子部中等は希望者の増加が併願前提の受験生が中心ですから、各回次とも難度は変わらないと思われそうです。従来型は希望者がやや減っていますが、多くの受験生が男子部中等と併願していることから、やはり難度は動かないでしょう。女子部も希望者に動きが見られないことから、やはり難度に変化はなさそうです。

自修館、横浜翠陵、大西学園も特に入試に大きな変更点はありません。自修館は、男子が模試によって希望者の動向にバラつきが見られます。概ね他校併願前提の受験生がやや増えているようですが、志望順位が高い希望者はやや減少気味です。女子は希

望者の動向に目立つ変化は見られません。各回次とも難化することはなさそうです。横浜翠陵も女子の希望者の動向に変化は見られず、男子は志望順位が高い希望者が少し増えているようですが、入試が難化するほどではありません。各回次とも今春並みの難度でしょう。大西学園は小規模入試の学校です。来春も小規模の入試でしょう。

公立一貫校の相模原中等、市立川崎とも、来春の入学者選抜では大きな変更がありません。相模原中

等は高学力層の男子の人气が上がっているようですが、女子は敬遠ムードが出ているようです。難化が進んだからかもしれません。男子はやや難化する可能性があります。女子は、もともと高倍率ですから、少々応募者が減るようなことがあっても、入り易くはならないでしょう。市立川崎は、女子の人气がやや上がっているようですが、難化するほどではなく、今春並みの難度でしょう。

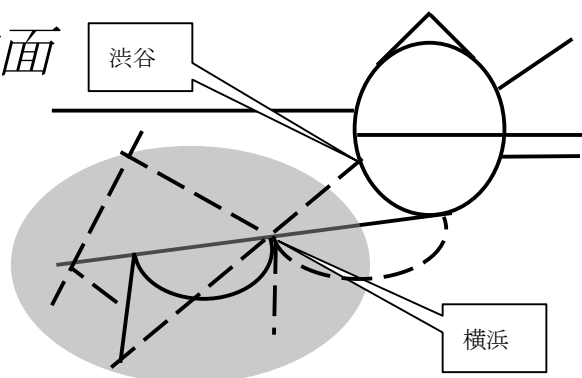
16. 横浜周辺・湘南方面

- 東急東横・東海道・横須賀・京急
・小田急江ノ島線周辺・小田原方面

【男子校】

神奈川の2月2日の男子最難関レベルは栄光学園と聖光学院第1回がトップ校を競っている状態が続いています。両校とも来春の入試で大きな変更はありません。模試では来春に向けて両校とも人气が上がっていますが、夏ごろまでは栄光学園の人气上昇が聖光学院をややリードしていたのが、秋口になって聖光学院がリードするように変化してきています。ただ、以前に比べて「2月1日は開成や麻布、2日は栄光か聖光」といった、難関校同士を併願しようとする受験生が減ってきていることもあって、最終的にはどちらか一方に人气が集まる、といった事態にはならないと思われます。両校とも高難度ですが、やや難化すると思っていた方が良さそうです。2月4日の聖光学院第2回は、来春もかなり厳しい入試になりそうです。神奈川県の手番、浅野も入試に特に変更はありません。模試では学力上位層の希望者がやや増えて、同校を高い志望順位で考える希望者が少し減っているようです。同校もやや難化するかもしれません。注意が必要です。

鎌倉学園と逗子開成もライバル関係です。今春は鎌倉学園が2月1日午後算数のみの入試を新設して、多くの受験生が挑戦しました。来春に向けては、両校とも入試に大きな変更はありません。模試では



鎌倉学園の人气が上がっているようです。今春新設された2月1日午後の算数選抜は、ハードルの高さに、同校を高い志望順位で考える受験生にやや敬遠ムードが見られますが、高学力層の関心が高くなっています。また、午前入試の他の回次も希望者は増えていて、各回次とも少し難化するかもしれません。注意が必要です。逗子開成は模試によって希望者の動向にバラつきが見られますが、高学力層の希望者がやや減っているようです。ただ、入り易くなるほどの変化ではなさそうで、各回次とも今春並みの難度だと考えた方が良さそうです。

藤嶺藤沢は2月1日午後2科入試を増設するほか、2月5日午前入試を、総合型の4科融合問題に変更します。受験生があまり多くない回次から、今後求められる学力観に対応する入試を試験的にやってみよう、ということでしょう。模試では2日午後の希望者が減っていますが、新設の1日午後希望者が流れているようです。また、他校併願前提の希望者が少し増えています。こうしたことから、各回次とも今春とあまり変わらない難度だと思われます。横浜は今春、県内初の適性検査型入試を2月1

日に新設しました。来春は同校に続いて適性検査型を実施する学校が出てきただけでなく、同校自身も適性検査型を2月2日に移して7日にも増設するなどの変更があります。東京のように適性検査型が定着してくるのでしょうか。模試では希望者の動向に特に変化は見られません。各回次とも今春並みの難度になりそうです。武相は2月2日だけに設定した午前入試を3日に移します。以前よりも受験生に対するアピールが今一つになってきた同校ですが、難度面も含め、来春も今春とあまり変わらない入試になりそうです。

【女子校】

今春は、横浜女子御三家のフェリス・横浜雙葉・横浜共立Aの3校とも2月1日の入試を2日に移動しました。来春は3校とも1日に戻ります。神奈川県では女子校の棲み分け意識が定着しているため、プロテスタント校ではない横浜雙葉もサンデーショックのときは移動する代わりに、湘南白百合や鎌倉女学院は例年2日の入試を1日に移動します。これだけであればサンデーショックは関係なく、入試情勢はサンデーショックでも変化しない、と言えますが、来春に向けての模試では、フェリスと横浜共立Aの高学力層の希望者が増加、横浜雙葉が少し減少しています。東京では2日から1日に戻る女子学院、立教女学院、東洋英和Aの希望者がいずれも減少していて対照的です。フェリスや横浜共立Aは、以前のサンデーショックよりも慶應湘南藤沢や東京の豊島岡女子などとの併願受験生が増えてきたからでしょう。人気がこのまま推移すると、横浜共立Aはやや難化するかもしれません。フェリスはかなり高難度ですから、少々応募者が増えても、目立って難化することはなさそうです。横浜雙葉は都内の立教女学院などと共通する動きで、希望者は少し減少していますが、目立って入り易くなることはないでしょう。2月4日の横浜共立Bは、模試での希望者がやや減っているようですが、もともと高倍率ですから、やはり入り易くなることはないでしょう。

これら3校と併願が多い鎌倉女学院1次や湘南白百合は2月1日から2日に戻ります。模試では両校

とも希望者が増えていて、東京の大妻や共立女子の2月2日の増加と同じ現象で、予定通りのサンデーショックの戻りと言えます。やや難化するかもしれません。鎌倉女学院の2次も2月3日から4日に動きますが、模試では希望者が少し増えています。1次の不合格者が2次に流れることもあって、こちらもやや難化しそうです。注意が必要でしょう。清泉女学院はプロテスタント校ではありませんが、鎌倉女学院と湘南白百合の移動を受けて、今春は1期を2月2日に移動しました。来春は2日に戻ります。模試では少し希望者が減っているようです。やや入り易くなるかもしれません。2月3日の2期は日程移動がありません。模試では高学力層の希望者が増えています。少し難化する可能性があります。注意した方が良さそうです。

さて、プロテスタント校の横浜英和女学院は今春、日曜日午前入試を避けて、午前入試は2月2日とし、1日は午後から入試を行いました。応募者激増で一気に難化しました。サンデーショックに関連した影響よりも、来春から青山学院の系属校となって、「青山学院横浜英和中学高校」に校名を変更、さらに2018年度からは共学化することが発表されたからです。来春は午前入試を2月2日から1日に戻しますが、模試では各回次とも希望者がさらに増えており、しかも高学力層の増加が目立っています。各回次ともさらなる難化は確実で、昨年までのイメージで考えていたら失敗するでしょう。

同じプロテスタント校の捜真は、前回のサンデーショックまでは日曜日の入試を避けていましたが、方針が変わって今春は2月1日に午前から入試を実施しました。来春は2月5日午後に入試を増設するほか、2日午後のC入試を2科4科選択から2科に、逆に1日午前のS入試は2科から2科4科選択に変更します。同校は、他校と同じく4科入試の進学校に移行しようとしていましたが、受験生が減少したことから2月1日午前に志望順位が高い受験生向けの2科基礎テストをS入試として設定、だんだんS入試が中心になりつつあります。来春はS入試に4科を設定します。模試ではS入試の重量化を嫌った

ようで希望者が少し減少、他校併願前提の希望者がやや増えています。S入試はもともと高難度ではありませんから、来春も難化することはないでしょう。他の回次も難化するほどの希望者の増加ではないようで、青山学院横浜英和の影響もあり、今春並みの難度だと思われます。

プロテスタント校ですが、もともと日曜日に関係なく入試を行ってきた横浜女学院は、定員配分を見直す程度で、大きな変更はありません。模試では回次によって希望者の増減が見られるほか、青山学院横浜英和の影響も見受けられます。入り易くなるかどうかは何とも言えませんが、難化することは考えにくく、各回次とも高くても今春並みの難度になりそうです。聖園女学院はカトリック校で、同校も来春は定員配分を一部変更するのみで、大きな変更はありません。模試では他校併願前提の希望者がやや増えています。志望順位が高い希望者は少し減っているようです。2月1日午前の1次はやや入り易くなるかもしれませんが、他の回次は今春並みの難度でしょう。聖ヨゼフは2月1日午前の算数と総合型のB入試を、午後実施の適性検査型に変更し、2月6日も適性検査型を増設するなどの変更がありますが、もともと小規模な入試で、来春もこの点は変わらないと思われます。

宗教色のない学校では、神奈川学園は入試に特に変更はありません。模試によって希望者の動向にバラつきがありますが、一部に併願前提の高学力の希望者がやや増えている部分はあるものの、総じて希望者は減少気味のようなようです。各回次ともやや入り易くなるかもしれませんが、横浜富士見丘は2月1日午前に適性検査型入試と英語選択入試を新設しますが、模試での希望者の動向に変化は見られません。このところ入学者が減っていることから、来春は高校募集(中等教育学校なので正式には後期課程募集)を行うこともあって、各回次とも少し入り易くなるかもしれません。北鎌倉女子も特に入試に変更はなく、模試での希望者にも目立つ動きは見られません。やはり入学者が減少気味で、各回次ともやや入り易くなるかもしれません。鎌倉女子大は特進・進学 of 2

コース制ですが、同校も入試に変更はなく、模試にも変化は見られず、少し入り易くなるかもしれません。緑ヶ丘女子、聖和学院、函嶺百合は小規模な入試で、来春は一部に変更がある学校もありますが、3校とも例年並みの入試になりそうです。

【男女校】

トップ校の慶應湘南藤沢は、特に入試に変更はありません。模試では男女とも希望者数が増えています。附属校人気に、女子校の項でも触れたように、今春はいなかったフェリスや横浜共立Aとの併願受験生も加わったの結果でしょう。もともと高難度で1次合格者に2次試験を課していますので難度そのものは今春とあまり変わらないと思われます。公文国際は2月5日の入試を廃止して1日と3日の2回入試とするとともに、1日のAは独特の1教科入試から科目選択の2教科とし、3日の第2回は2科を取りやめ、4科のみとするなどの変更があります。模試によって希望者の動向にバラつきがありますが、総じてAは希望者がやや減少、Bは高学力層の希望者が減って、同校を挑戦受験で考えたい受験生が増えているようです。Aは2科になることから、少し難化しそうです。Bは少定員であることもあって、難度は今春並みと思われます。山手学院は定員配分を一部見直すのみで、大きな変更はありません。模試では男女とも希望者がやや増えています。各回次とも難化するかどうかは微妙なところですが、注意した方が良さそうです。

日大藤沢も入試に特に変更はありません。模試では男女とも希望者が増えていて、特に男子の増加が目立ちます。人気が上がっているようです。2回入試ともやや難化するかもしれません。注意した方が良いでしょう。湘南学園も入試に特に変更はありません。模試では他校併願前提の希望者が男女とも増えています。同校を高い志望順位で考える希望者は昨年並みのようです。2月1日午後のAは今春並みの難度になりそうですが、他の回も難化するかどうかは微妙なところ。注意した方が良いでしょう。関東学院はプロテスタント校で、今春は日曜日にあつた2月1日の午前入試を2日に動かし、

1日は午後のみとしました。来春は2日午前の入試が1日に戻ります。模試では男女とも希望者が少し減っていますが、特に1日午後の1期Bの減少が目立ちます。これは、今春は実施しなかった1日午前の入試に希望者が流れたからですが、それ以外の回次も希望者が少し減っていることから、各回次ともやや入り易くなるかもしれません。

関東学院の系列校、関東学院六浦は、関東学院とは異なって今春は2月1日の午前も入試を行いました。来春は2月5日の入試を廃止し、英語選択入試を始めます。模試では男子の希望者が少し減っていて、女子の希望者は増えています。各回次の難度は今春とあまり変わらない水準でしょう。同じプロテスタント校のアレセイア湘南も今春は2月1日午前に入試を行いました。来春は2月5日午前の入試を廃止し、3日午前に2科の入試を新設します。イギリス留学に積極的に取り組んでいる同校ですが、模試の希望動向に目立つ変化はなく、各回次とも今春並みの難度でしょう。

やはりプロテスタント校の横須賀学院は、今春日曜午前入試を避けて2月1日午前入試を2日午前に動かしましたが、来春は1日午前に戻すとともに適性検査型を新設、4日午前入試を廃止するなどの変更があります。模試では男女とも希望者に目立つ変化はなく、各回次とも今春並みの難度でしょう。ところで横浜英和女学院は青山学院の系属校となりますが、横須賀学院も青山学院との教育連携を実施しています。こちらは2009年から実施されていて、当初は15名程度だった青山学院大学への推薦枠が拡大されることを期待して受験生が増えたものの、なかなか拡大が実現せず、一昨年になってやっと30名への拡大が決まりました。なかなか決まらなかったため、失望して横須賀学院の受験を取り止めたケースも見られました。「教育連携＝実質附属校化」と、安易に考えてはいけなことを示しています。

この他の私立中学では、横浜隼人が2月1日午後入試を適性検査型に変更するほか、2日午前入試で英語選択も実施します。新校舎が完成することから、人気は上向いているようで、模試では男子の

希望者が増えています。女子は目立った変化は見られません。男子は希望者が増えています。入試が難化するほどではなく、各回次とも今春並みの難度になりそうです。鶴見大附属は入試に大きな変更はありません。難関進学・進学の2コース制です。模試では若干男子の難関進学コースの希望者がふえているようですが、難化するほどではなく、各コース各回次ともやはり今春並みの難度でしょう。横浜創英は2月3日午前、4日午前入試を2日午後と4日午後に移し、相洋は2月5日の入試を2日午前に前倒しますが、模試の希望者に目立つ変化はなく、両校の各回次とも難度に変化はなさそうです。橘学苑は4科入試を外国語活動に切り替えますが、受験生にはあまり浸透していないようで、小規模の入試になりそうです。

国立では横浜国大鎌倉が、面接を2月2日に移し、2月2・3日の2日間受験になります。このような変更を行うと受験生の減少は確実で、模試での希望者もやや減っているようです。少し入り易くなると思われれます。横浜国大横浜は来春の入試で特に変更はありません。模試では男子の高学力層の希望者がやや増えています。難化するほどではなさそうです。女子は少し人気に陰りが見られます。こちらも応募者が少々減っても入り易くなるほどのことではなさそうで、難度面では安定した入試になりそうです。公立一貫校も、県立の平塚中等、横浜市立南ともやはり入学者選抜に特に変更はありません。平塚中等は大学合格実績が出るようになって人気は上がってきましたが、来春に向けては女子の人気にやや陰りが出ているようです。難化したからかもしれません。比較的高倍率ですから、少々応募者が減っても入り易くなることはないと思われれます。男子も今春並みの難度でしょう。横浜市立南は開校時の過熱した人気は落ち着いてきました。来春に向けては男子受験生の関心が高くなっているようですが、同時に高いハードルから迷う受験生も多く、難化するかどうかは何とも言えません。入り易くなることは期待できないことは確かです。女子の人気は安定しているようです。来春も今春並みの難度でしょう。